

平成12年度

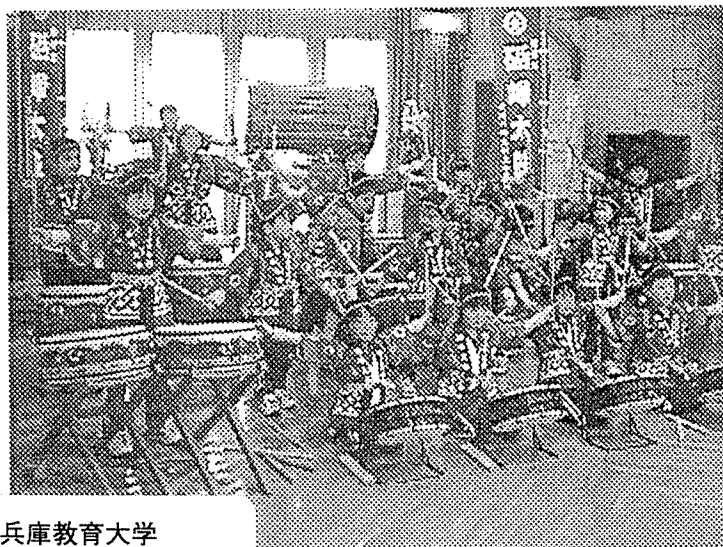
西播磨地区へき地教育研究発表会
神崎郡へき地教育研究発表会

研究紀要

研究主題

複式生き生き川上っ子

—— 少人数を生かした複式指導 ——
(授業の個別化と集団化)



兵庫教育大学
附属図書館



50000048186

2年11月16日(木)

神崎郡大河内町立川上小学校

目 次

◇ はじめに	
I 学校の概要	1
II 研究の概要	7
III 研究実践	13
1 教科学習の時に同じ教室で学習する隣接の学年	13
(1) 授業の記録	
① 1・2年国語科	
② 3・4年国語科（総合）	
③ 5・6年算数科	
(2) カリキュラム	
(3) 成果と今後の課題	
2 特別活動での全校生の縦割り 児童会活動	65
3 児童と教師	67
(1) 川上っ子タイム	
(2) 保健室から	
4 学校と家庭	73
親子のふれあい	
5 児童と地域	74
(1) 老人会との交流	
(2) 地域との交流	
6 川上小学校と近隣校児童	77
(1) 交流学習	
(2) 自然学校	
7 川上小学校児童と町内外の人々	78
(1) 栃原小学校との和太鼓交流	
(2) インターネットで	
(3) バヌアツ共和国と	
◇ おわりに	

はじめに

本校は、恵まれた豊かな自然と温かい地域の人たちの思いが取り巻く山間の小さな学校です。全校児童22名は、純朴で優しく、そして、みんな仲良しです。しかし、良いことばかりではありません。改善していかなければならないことも多いのです。消極性が随所に見られ表現する力が乏しいといったこともそういうものの一つです。

へき地のもつ環境的な悪条件が負の側面として子ども達の生活にも覆い被さっているのでしょうか。

十数年来、本校の特色ある教育として取り組む和太鼓演奏「砥峰太鼓」は、こうした悪条件を払拭し、児童一人ひとりに「自信」と「誇り」を持たせるべく先輩職員から受け継いできたものです。

さらに、本年度は兵庫県へき地教育研究連盟ならびに大河内町教育委員会から指定を受け教科の面からも関心・意欲を高め「複式生き生き川上っ子」の育成を願って研究を推進してきました。より活発な学習活動を展開し、効率的に進める複式授業の在り方を追求する国語科での同単元同内容指導、そして算数科での類似単元指導等の研究です。また、郷土を知り、理解し、愛してもらおうべくふるさと学習も今年度から始まった総合学習に組み入れております。

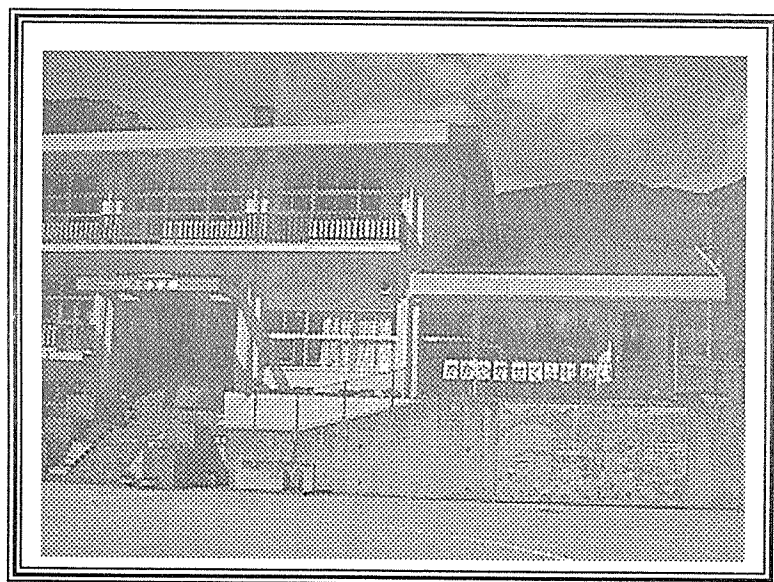
拙い実践ですが、かかる研究の一端を小誌にまとめてみました。わたしたちの目指す研究主題には、いまなお遠く、多くの課題を残していますが、本誌をご覧いただき、先生方の率直なご指導、ご批正を賜れば幸甚に存じます。

おわりになりましたが、これまで適切にご指導を賜りました県教育委員会西播磨教育事務所の沖汐・秋本先生、また前南小田小教諭の青田先生、そして、全面的なご支援、ご援助をいただきました大河内町・教育委員会、関係各位に対して感謝し厚くお礼申し上げます。

平成12年11月16日

大河内町立川上小学校長 藤末康男

I 学校の概要



I 学校の概要

1 地域の実態

川上地区は、大河内町の中心地である寺前地区より北西へ14km。JR播但線長谷駅より西へ7kmの所に位置する。海拔400～600mの山の斜面に94戸の民家が散在し、人口308人（平成12年3月末現在）が暮らしている。山間であるため、日照時間は短く、夏季の気温が平地より2～3度低い。冬季は寒気が厳しく積雪も平地より多い。このような厳しい自然の中で、人々は会社、公務員、農協、サービス業、山労等への勤務で生計を立てている。川上地区では、60才以上の人が多く、全体の約40%を占めているのに、6才迄の子どもは2%しかいない。関西電力大河内長谷ダムができ、駅までの交通の便がよくなったとはいえ、就職や結婚で校区外に住む人も多く、年々、高齢化・過疎化が進んでいる。しかし、地区の人たちは協力しあって、くまびきうちや地蔵盆等の伝統行事を行っている。また、校区にある砥峰高原を活かし、春には山焼き、秋には観月会やすずき祭りを行う等村おこしにも力を入れている。

学校は、地区住民の心のよりどころとして重要な存在であり、人々は、学校教育に対する期待が大きく、また協力的である。児童不在の家庭も全てが準PTA会員であり、学校からは、毎月発行する学校通信や川上っ子だより、年2回の文集等を配布している。また、学校と地域と一体となった行事も参加が多い、秋の運動会、「ふるさと写真展」、とんど、ふれあい観劇、学習発表会には来校者も多い。ウサギやチャボの餌を持ってきてくださったり、お茶を摘んで持ってきてくださったりする。「おらが学校」として、学校は地域の中心であり、学校統合より存続を望む人が多い。

2 学校の実態

へき地1級、児童数22名、複式3学級、教職員9名の小規模校である。平成2年5月に新校舎と体育館、9月にプールが完成した。

児童は緑豊かな自然に囲まれ、そして、すばらしい施設設備の整った環境、温かみのある地域の人々の協力のもとで素直に成長している。全校生が一緒になって遊んでいたり、進んで動物の世話をしたりしている。和太鼓や一輪車に意欲的に取り組み、自信と誇りを持つようになってきた。しかし、少人数でよく知り合った間柄のため妥協的になりやすく、厳しい磨きあいや葛藤の場が少ない。町内の交流学習

参加によって、他校の児童とも友達になり、人間関係やものの考え方が広くなりつつある。家庭環境においては、三世代同居家族が多く、共働きの家庭も少ないので、鍵っ子はいない。帰宅してから、近所に友達が少ないために、学校へ来て遊ぶことが多く、テレビを見ているよりも、外で遊ぶ児童がほとんどである。

校区内にはピアノ教室と珠算教室しかなく、学習塾に行っている児童はほとんどいない。

(1) 児童数及び園児数 (平成12年度)

性別 学年	1	2	3	4	5	6	合計	幼稚園
男	2	1	1	1	5	3	13	1
女	1	2	1	3	0	2	9	1
合計	3	3	2	4	5	5	22	2
学級数	1		1		1		3	1

(2) 児童数の推移

年	児童数	年	児童数	年	児童数	年	児童数	年	児童数
昭和56	19	60	22	平成1	19	5	39	9	36
57	15	61	19	2	27	6	40	10	29
58	18	62	17	3	25	7	42	11	26
59	18	63	20	4	31	8	38	12	22

3 学校の沿革

- 明治 7年 4月 応化小学校設立
- 明治18年 4月 生野魁文小学校川上支校となる。
- 明治20年 4月 応化簡易小学校となる。
- 明治21年 3月 廃校
- 明治24年11月 応化小学校再開 (福田寺境内)
- 明治27年 4月 川上尋常小学校と改称
- 明治31年 9月 校舎新築
- 大正 7年11月 校地拡張
- 昭和 5年 8月 校舎大修理
- 昭和22年 4月 長谷村立川上小学校と改称

昭和24年	4月	校舎新築
昭和30年	4月	長谷村、寺前村合併、大河内町立川上小学校と改称
昭和31年	6月	公民館新築（講堂）
昭和55年	8月	運動場拡張、校門移動、駐車場新設
昭和62年	10月	郡へき地教育研究発表会
昭和63年	1月	校舎改築に伴う造成工事着工
平成	元年11月	郡へき地教育研究発表会
	12月	和太鼓練習開始
平成	2年5月	新校舎・屋内運動場及び幼稚園園舎完成、プール工事着工
平成	2年9月	プール完成
平成	2年11月	町民協実践発表会
平成	3年11月	郡へき地教育研究発表会
平成	4年2月	金銭教育研究発表会
平成	4年6月	大規模校との交流研究発表会（はあと記念財団）
平成	4年10月	第41回全国へき地教育研究大会兵庫大会 第7回近畿地区へき地教育研究大会兵庫大会
平成	5年11月	郡へき地教育研修会、算数科教育研修会
平成	7年11月	町民協実践発表会、国際理解教育実践発表会
平成	8年10月	郡へき地教育実践発表会
平成	9年10月	小さい学校と地域の教育研究発表会
平成	10年12月	複式教育研究発表会
平成	11年11月	大河内町教育委員会指定教科教育研究発表会（複式指導）

4 学校経営方針

（1）学校教育目標

郷土を愛し、たくましく生きる力と感性豊かな心を持つ川上っ子の育成

求める子ども像

- ・やる気のある子ども（知） ----- がんばる子になろう
- ・豊かな心の子ども（徳） ----- 明るい子になろう
- ・たくましい体の子ども（体） ----- 元気な子になろう

求める学校像

①活力に満ちた魅力ある学校

・一人一人のよさや可能性を見だし、個性や能力を伸ばす教育活動を展開し、学ぶ喜びを味わわせ、「生きる力」を育む学校づくり。

② やすらぎとふれあいのある学校

・心やすらぐ環境づくりを進めるとともに、ゆとりある学校運営を進め、子どもとのふれあいを大切にした学校づくり。

③ 地域の実情に即した、開かれた学校

・地域との連携を密にし、理解と協力を得て共に歩む学校づくり。

(2) 経営方針

へき地・小規模・複式学級の特色を生かした教育を展開するなかで、「生きる力」を育み、心豊かにたくましく生きる児童の育成に努める。

- ① 教育内容の基礎・基本を確実に定着させるとともに、「新しい学力観」に基づき自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等の育成を目指した学習を充実する。
- ② 自他の生命、人権を尊重する精神を徹底させ、豊かな心情を育てる。
- ③ 様々な体験的な活動や集団活動の場を設け、個人又は集団の一員としての望ましい生き方や個性の伸長を図る。
- ④ たくましく生きるための健康や体力を増進させるために、体育・スポーツ活動、健康教育の充実を図る。
- ⑤ 家庭・地域社会と一体となり、心のふれあいを大切にした学校づくりに努める。

(3) 重点努力目標

① 児童の自ら学ぶ力を高め、基礎学力の定着を高める。

・各教科の指導において、学習の手順や課題解決の方法を身につけさせ自ら学習課題を設定したり、解決する力を身につける。

か ----- かだいをみつける

わ ----- わだいを広げる

か ----- かんがえを深める

み ----- みんなでまとめる

- ・基礎・基本の定着を図る。
- ・児童の学習の達成状況を的確に把握し、個に応じた指導ができるように学習展開の工夫をするとともに、指導と評価の一体化を図る。
- ・興味・関心を持たせる工夫をし、一人一人の可能性や個性の伸長を図る。
- ・実験・実習・自然観察などの体験学習や勤労体験学習を通して、自ら探求する態度や能力を養う。

- ・コンピューター等の教育機器を有効に活用し、指導効果を高める。

②道徳教育と人権教育の徹底に努める。

- ・学校の教育活動全体で人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を養う。
- ・道徳の時間の充実を図り、道徳的実践力を高め、補充・深化・統合を意図的、計画的にするために各教科等との連携を図る。
- ・お互いの個性を認め合い、温かい思いやりに満ちた人間関係づくりに努める。
- ・地域での美化活動・福祉体験活動を通して、ボランティア精神の尊さ、助け合う心の大切さを学ばせる。
- ・B年度カリキュラムによる実施と、研究を推進する。

③特別活動の充実に努める。

- ・児童の発達段階や特性、地域の実態に合わせた体験活動に児童の発想や考えを尊重し、自主的・実践的な活動を活発にする。
- ・異年齢層の人々との交流を通して、寛容の心や人間としての在り方・生き方についての自覚を深め、自己を生かす態度を育てる。

④総合的な学習の研究推進に努める。

- ・体験的な学習や問題解決的な学習を重視し、学ぶ意欲や学び方、知的好奇心・探求心を育てる。
- ・情報活用能力を高め、あわせて情報モラルや情報に対する責任感などを育成する。

⑤生徒指導の充実を図る。

- ・一人一人の児童の基本的な生活習慣の確立を図る。
- ・好ましい習慣（あいさつ・返事・言葉づかい等）の定着を図る。
- ・清掃活動、奉仕活動等を通して勤労を重んじ、最後までやりぬく児童を育てる。
- ・人間的なふれあいを通して心のきずなを深め、好ましい人間関係をつくることに努める。
- ・教育相談や子どもを語る会の充実を図り、児童の内面を多元的、総合的に理解するように努める。
- ・不登校の問題に対しては、教職員の共通理解に基づき、個々の児童に応じた適切な対応に努めるとともに、保護者や「県立但馬やまびこの郷」等の関係機関との連携を密にして、その状況の改善の努める。

⑥健康教育の充実と防災教育の充実を図る。

- ・発達段階に応じた保健教育を実施し、児童が生涯にわたって主体的に健康

づくりができるよう指導する。

- ・児童が主体的に給食活動に取り組み、健康な食生活を実践できる態度を育てるとともに、豊かな人間関係を育てる。
- ・児童の健康保持、生活習慣の確立のため、家庭への啓蒙を図る。
- ・安全点検、施設設備を充実させるとともに、安全指導を徹底させる。
- ・防災体制の整備・充実と、自然の威力に対する畏敬の念やモノに対する感謝の心を育てるとともに、人間としての在り方・生き方を考えさせる。
- ・防災教育の充実を図る。
- ・地域の実態や特性を踏まえ防災（避難）訓練の方法や工夫をし、効果的な実施に努める。

⑦福祉教育の充実を図る。

- ・地域の高齢者との交流の機会の充実に努めることにより、思いやりの心や共に生きる心を育てる。
- ・関係機関・施設等と連携し、福祉活動をするなどして、ボランティア精神の涵養に努める。

⑧国際理解教育の充実を図る。

- ・地域行事に積極的に参加することにより、郷土を愛する心を育てる。
- ・外国人教師を交えて、異文化理解を深め、共に生きる豊かな心を育む。

⑨学校環境の整備をする。

- ・「環境は人をつくる」と言われる。環境の整備・美化・緑化に努め、心やすらぐ環境づくりや学習の雰囲気づくりを進める。
- ・魅力ある図書館づくり、掲示教育の充実を図る。

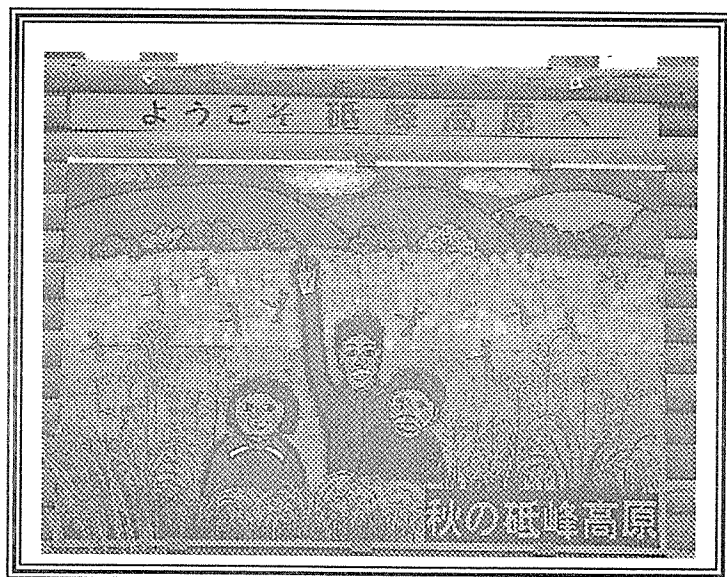
⑩特色ある学校づくりの推進を図る。

- ・川上っ子タイムを充実させる。
- ・全校生で和太鼓の演奏をすることにより、心のふれあい、豊かな心を育む。
- ・交流学习を充実させる。
- ・校区の自然を生かした体験活動を実施する。

⑪教職員としての資質と指導力の向上を図る。

- ・「新しい学力観」を踏まえ、児童の多様な個性と能力に対応するために意識の改革に努める。
- ・専門職としての資質と指導力の向上を図るため、教材の精選や指導方法について創意工夫に努める。
- ・教職員自らが社会の変化に対応した教育観を培う。
- ・複式学級における効果的な指導のあり方を研究する。

II 研究の概要



II 研究の概要

1 研究テーマ 複式生き生き川上っ子

—— 少人数を生かした授業の研究（集団化と個別化） ——

2 テーマ設定の理由

本校は、全校生22名のへき地・小規模校である。複式学級の特性として、「相互に励まし合い、協調性に富む」「友達と仲がよく、協力的である」「明るく素直である」「少人数のため個に応じた指導ができる」「異年齢集団による活動が活発である」「能力差と学年差が個人差としてあらわれる」「語彙、表現力が不足し、発表意欲に欠ける」「思考や発想の多様性、論理性が不足している」「社会性が不足している」「学習が深めにくい」等が挙げられる。これらは、へき地、小規模校の児童の一般的な傾向とほぼ同じである。

そこで、このような実態をふまえて、本校では、平成10年度より、へき地・小規模・複式教育の研究に取り組んでいる。複式を「教科学習の時、共に同じ教室で学習する隣接の学年」「児童会活動や学校行事等の特別活動での全校の縦割り」「児童と教師」「学校と家庭」「児童と地域」「川上小学校児童と近隣校児童」「川上小学校児童と町内外の人々」のように幅広くとらえることにしている。学習環境を拡大し、より多くの人と接し、交流を図ることにより、様々な考え方や見方、感じ方に気づき、視野を広めることができる。教科指導においては、学習の集団化を図り、子どもたちが切磋琢磨し、学力を向上させ、社会性や適応能力を伸ばしていけるようするため、国語科では同単元同内容指導、算数科では類似単元指導の研究を進めることにした。また、少人数であることを生かし、個人カルテや到達目標、ふり返りカードを作成し、個人差や発達段階に応じた指導ができるように学習の個別化をし、基礎・基本の充実を図っていけるようにした。

3 取り組み

(1) 複式学習指導研究

① 研究教科

- ・国語科 同単元同内容指導
- ・算数科 類似単元指導（同時導入および同時終末）

②授業研究

ア、国語科における同単元同内容指導

指導の効果

- ・学習集団が大きくなり、多くの考えや思いにふれることができ、他と比べながら、自分の考えを深めることができる。
- ・学習の集団化を促進し、学習の意欲や集中度を促すことができる。
- ・学年別指導による指導の複雑化、分散化を低減し、効率的に教師が働きかけられる。

指導方法

- ・同単元同内容指導を一人の指導者が、複式学級の児童を同時に指導をする。

手順

- ・実施当初の移行年度では、上学年は学年別の教育計画通りに学習し、下学年は、同単元同内容指導の内容で学習する。

留意点

- ・1、2年生は、基礎段階であるので1学期は学年別指導をする。言語指導事項等学習経験差を配慮する。
- ・学習構造図で指導過程と個人の到達度目標を明確にしておく。

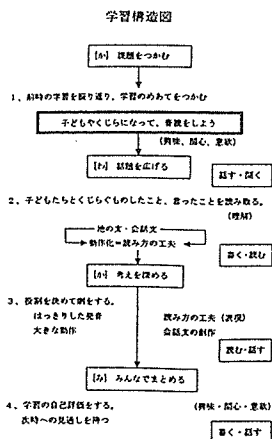
指導案の例

(1年)

(2年)

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数を生かした指導の工夫 ・複式学級の特徴を生かした指導の工夫 ・学年別の支援と配慮事項 	1、 2、 3、 4、	か 課題をつかむ わ 話題を広げる か 考えを深める み みんなでまとめる		<ul style="list-style-type: none"> ・1年に同じ

学習構造図と個人カルテの例



個人カルテ		
**	氏名	個人の目標
1		<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな、片假名、漢字を正しく読む。 ・人物になりきり楽しんで学習活動をする。 ・はっきりとした発音をする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな、片假名、漢字を正しく読む。 ・動作化を次だちと楽しむ。 ・しっかりと声を出す。
		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、片假名を正しく読む。 ・動作化することにより発音の誤りをつかむ。 ・動作を大々とする。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ、読み速さを工夫して書読をする。 ・人物の気持ちや想像し、自分に付け加えて読む。 ・次だちに目標のほうを助言できる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、片假名を正しく読む。 ・動作化を次だちと楽しむ。 ・はっきりと書える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習リーダーの役を行おうとする。 ・動作化や会話文の読み方を工夫できる。 ・ほすや資料などを想像して書読に活かせる。

イ、算数科における類似単元指導

- 指導の効果**
 - ・共通の学習活動を取り入れることにより、思考の多様化と深化が期待できる。
 - ・同時導入、同時終末によって両学年の関心、意欲が高まる。
 - ・学習内容の発展と既習学習の復習をすることにより、理解と深化を図ることができる。
- 指導方法**
 - ・導入段階（か）と終末段階（み）を同時に指導し、それぞれの学年の課題解決にガイド学習（リーダー学習）や一人調べなどを取り入れて指導する。
- 手順**
 - ・各学年の指導内容を明確にし、どの単元が類似単元として可能か検討しておく。
- 留意点**
 - ・内容の明確化と共通指導の場面づくりの工夫をする。
 - ・ガイド学習の中での練り合いやワークシートの有効利用をする。
 - ・ふりかえりカードで自己評価する。

指導案の展開例

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ・互いの学習内容や課題を知る。 ・上学年では下学年の学習の発展がわかるように同一課題を取り上げるなど工夫する。 ・それぞれの課題に向かって学習を進めるが、学習内容や児童の実態に合わせて、学習形態を工夫する。 ・同時に取り扱う。 ・本時の学習の確認と次時の課題を設定する。 	<p>1、</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px;"></div> <div style="text-align: center;"> <p>か 課題をつかむ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px;"></div> </div> <p>2、</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="border-left: 3px double black; border-right: 3px double black; width: 100px; height: 100px; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 5px; left: 5px;">わ</div> </div> <div style="text-align: center; margin: 0 10px;"> <p>話題を広げる</p> </div> </div> <p>3、</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="border-left: 3px double black; border-right: 3px double black; width: 100px; height: 100px; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 5px; left: 5px;">か</div> </div> <div style="text-align: center; margin: 0 10px;"> <p>考えを深める</p> </div> </div> <p>4、</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="border-left: 3px double black; border-right: 3px double black; width: 100px; height: 100px; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 5px; left: 5px;">み</div> </div> <div style="text-align: center; margin: 0 10px;"> <p>みんなでまとめる</p> </div> </div>			<ul style="list-style-type: none"> ・課題をしっかりつかませ一人調べができるようにする。 ・上、下学年の共通性を図りながらも、学年の発達段階、個人差を考慮し、学習意欲を持たせるような展開を工夫する。 ・ガイド学習を取り入れ、主体的に学習が進められるようにする。 ・本時の学習でわかったことを発表する。(学習の定着化と相互評価)

③年間カリキュラムの作成

国語科における同単元同内容指導と算数科における類似単元指導の年間カリキュラム試案について

本校では、図工科、音楽科、体育科、生活科等、同単元同内容指導を実施している。

同単元同内容指導とは、複式学級を同じ教材によって指導することである。複式の形態を生かし、学習の効率化を図り、その目標を深化させるための指導である。共通の学習場面が多くなり、経験領域の拡大と集団思考による思考の多様化や深化が図られるなど、思考の広がりや表現力の向上が期待できる。また、共通の指導場面が多くなり、少人数を対象にして指導することから、児童一人一人をじっくり見つめて指導する時間的余裕が生まれる。個々の児童の能力や特性等に配慮した指導ができ、個別指導の充実が図られる。このような利点に着眼し、この指導法の研究と年間カリキュラムの作成に取り組んできた。

これまで、国語科において各学期に1単元(物語文等)ずつ実施してきた。しかし、今後の児童の減少、国語科の新学習指導要領の改善の基本方針(言葉で伝え合う能力の育成の重視)により、本年度はAB方式で、同単元同内容指導を取り入れることにした。1、2年においては、1学期当初は学年差が大きいので、学年別指導をすることにした。また、学年別配当の漢字においても、該当学年より上の学年に配当された漢字(配当外の漢字も含む)について必要に応じてふりがなをつけて提示するようにした。

算数科においては類似単元指導をおこなっている。類似単元指導は、2個学年に類似の内容を指導する。複式学級の形態を生かし、指導の効率化、深化を図り、児童の協力学習を促すことを重視し、共通するねらいを持った学習内容を組み合わせると同時に指導することである。指導過程を「か・わ・か・み」の四段階にし、問題解決能力を高めることをねらいとしている。このような点に留意し、年間カリキュラムの作成に取り組んだ。

(2) 自ら学ぶ子どもの育成

- ①ガイド学習(リーダー学習)
- ②一人一研究(児童一人一人が研究したいことを決め、継続的に取り組む)
- ③朝の時間の活用(読書)

(3) 活動意欲のある子ども

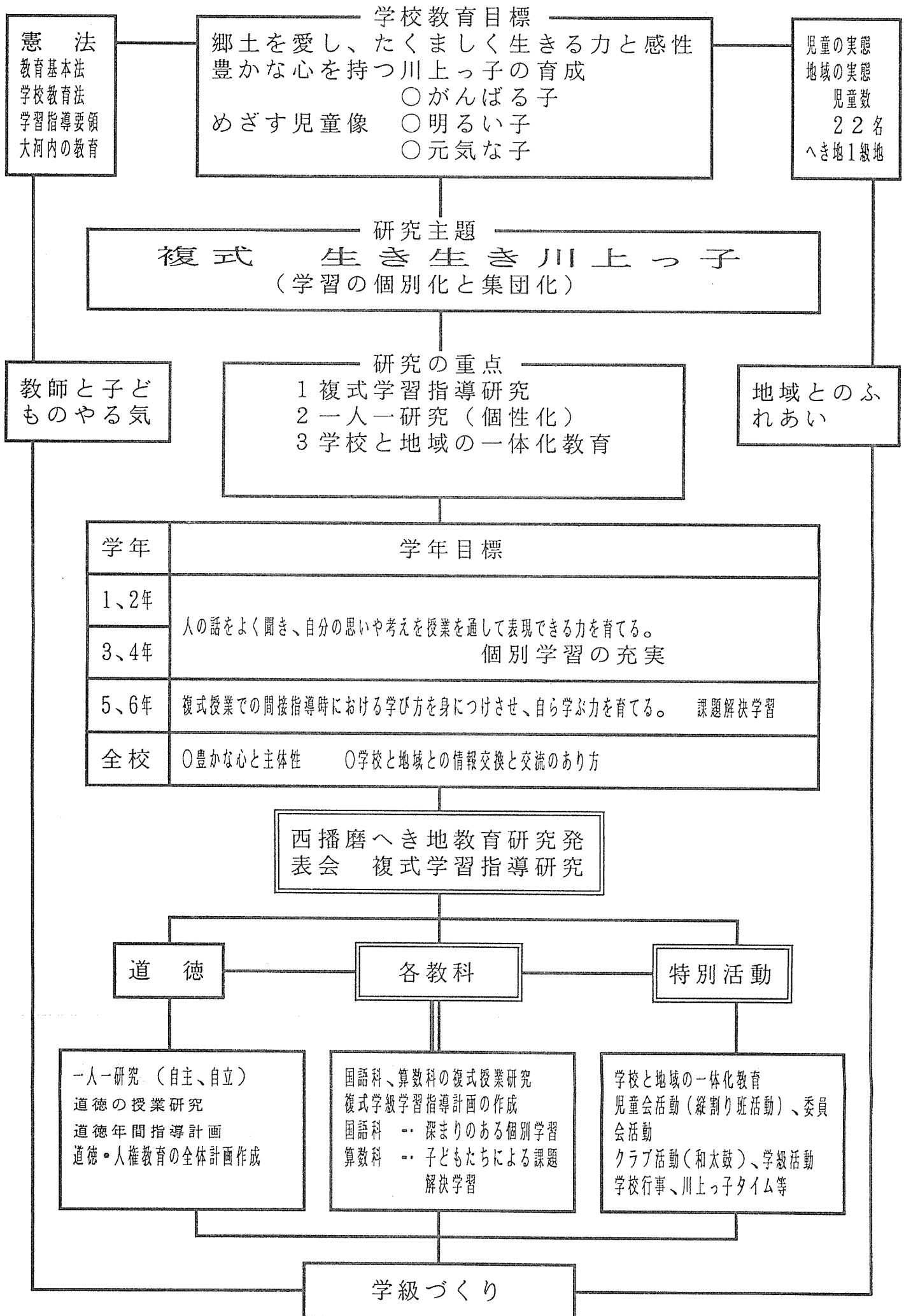
- ①主体的な児童会活動
- ②和太鼓演奏
- ③一輪車競技

(4) 学校と地域の一体化教育

- ①地域の人材の活用
- ②伝統文化を守ろうとする意欲の育成
- ③地域との交流



研究主題の全体構想



4 研究の経過 (主に教科学習)

(1) 昨年度の取り組み

① 複式授業研究 (1・2年、3・4年、5・6年)

国語科 4回

算数科 2回

② へき地教育(複式)先進校の視察

算数科教育研究発表会「子どもがつくる算数科学習」

三田市立母子小学校

③ 講師招聘による研修会

講師 兵庫県教育委員会西播磨教育事務所 学校教育課指導主事

秋本 隆夫 先生

・効果的な複式指導について ・総合的な学習の単元作りについて

・主体的に取り組むための系統的な指導について

④ 国語科・算数科カリキュラム(学期に1回同単元同内容教材をする)作成

(2) 本年度の取り組み

4月 ○ 児童の実態把握

○ 昨年度のカリキュラムの見直し

○ 研究主題決定

5月 ○ 5・6年複式授業研究(算数科)

5年「小数のわり算」 6年「分数のわり算」

講師 青田綾子先生(前南小田小学校教諭)

6月 ○ 3・4年複式授業研究(国語科)

「子どものよさを伸ばす複式学級講座」公開授業

同単元同内容異程度「私のすすめるこの一さつ」

学習指導案を工夫

7月 ○ 1・2年複式授業研究(国語科)

1・2年 同単元同内容「おむすびころりん」

8月 ○ 実践記録原稿の作成

○ 国語科・算数科のカリキュラム作成

9月 ○ 1・2年複式授業研究(国語科)

同単元同内容指導「くじらぐも」

講師 西播磨教育事務所 学校教育課指導主事

沖 汐 守 彦 先生

少人数を生かした複式指導

複式推進教員の指導法について

10月 ○ 5・6年複式授業研究(算数科)

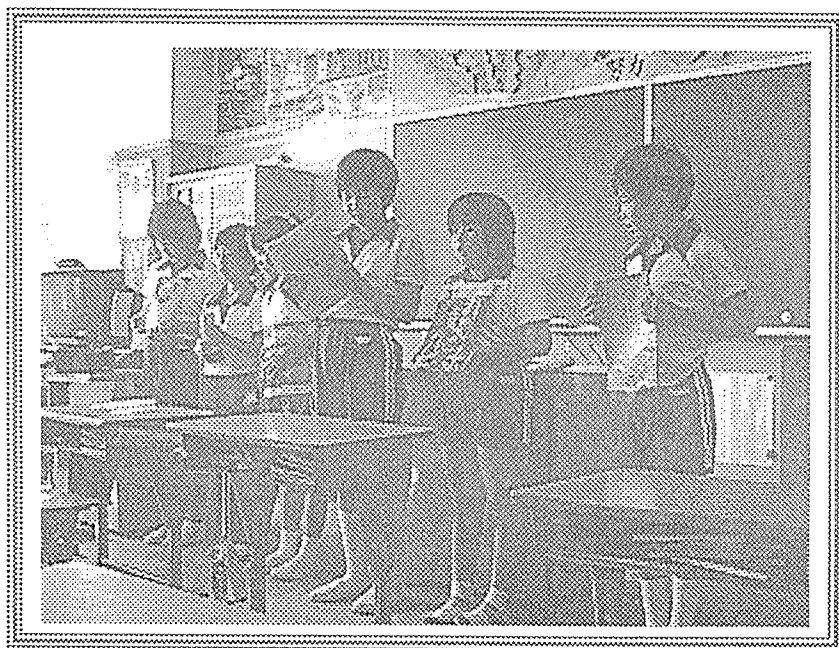
5年「順々に調べて」 6年「変わり方を調べて」

○ 3・4年複式授業研究(国語科(総合))

○ 町教育研究発表会(寺前小学校)

11月 ○ 西播磨地区へき地教育研究発表会(16日)

Ⅲ 研究実践



1 教科学習の時に同じ教室で学習する隣接の学年

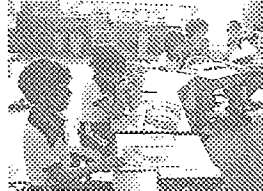
(1) 授業研究の記録

① 1・2学年 国語科

個別化と集団化を図るため、同単元同内容指導を取り入れた。

以下のことをふまえ、指導は学級担任とへき地教育推進教員の複数で行い、個別指導に学級担任があたりへき地教育推進教員がリーダーに助言しながら授業を進めた。

入門期
学年差と個人差の大きさ
学習過程（**か** **わ** **か** **み**）の体得
学習リーダーの育成と学習の深まり



これらのことと、児童たちは登場人物に同化しやすい発達段階にあり劇遊びが好きであることから、教材に物語文を取り上げ学習活動には劇化を取り入れた。声を出して、あるいは体を動かして表現することの喜び、楽しさを感じとることが“生き生き川上っ子”につながると考えた。

「おむすびころりん」

教材について

- ・歌の部分を暗唱してリズムカルな音の感覚を楽しめた。
- ・散文形式で一行空きの九連で書かれているので、場面やあらすじを読みとりやすく、挿し絵が人物に同化する助けとなった。
- ・二年生にとってはもの足りない内容であるので、活動内容に工夫がいった。

指導過程について

- ・リズムカルな音の感覚をつかむため、また学習そのものを楽しいものにするために、楽器でリズム打ちをして音読をした。
- ・音読をくり返すことで動作化につなげていくことにした。一人ひとりがおじいさんを友達の前で演じる場面を作った。
- ・二年生には、七五調の語りや、くり返しなどの表現法の発見をうながした。

授業を終えて

- ・全ての場面を取り上げたために、話の筋を追うだけで単調になり子どもの活動が停滞してしまった。
- ・指導者が指導することと、学習リーダー役に任せることが明確になっておらず、結果、教師主導となった。
- ・学習過程（**か** **わ** **か** **み**）にそった活動は成り立ちにくかった。

- ・挿し絵や小道具をもっと活用すること、場面をしばらくくり返し動作化することなど子どもが主体となるための工夫がいる。
- ・学級担任が個別指導に当たったことは、児童の実態を把握しており効果的であった。
- ・学習過程（㊦㊧㊨㊩）を体得させること・リーダー学習になれることに重点をおいて、「大きなかぶ」の授業を行った。型どおりの学習活動のくり返しは、子どもの思考をとめてしまった。
- ・リーダー学習においても読みを深めるためにはどのようにすればよいかということにしばった。

「くじらぐも」

教材について

- ・動作や会話文による掛け合いのおもしろさがあり、役割読みや動作化が取り入れやすかった。
- ・「くじらぐも」の題名や、ダイナミックな話の展開に子どもは引きつけられた。地上と空という場面設定が楽しく、動作や声を出して大きく表現する意欲につながった。

指導過程について

- ・導入段階で、校庭で雲を眺めて遊び劇をすることにつなげた。
- ・劇をするにあたり、小道具について挿し絵を参考にして子どもたちが考えたり、動画になった挿し絵を背景に動作化や役割読みの練習をしたりした。
- ・場面ごとに、一時間の学習を組み立て、自己評価の場面をもうけた。一年生は担任と対話しながら評価を行い、評価の進まない二年生についても担任が助言を行った。
- ・学習過程（㊦㊧㊨㊩）を体得させるため、また、学習リーダーが進めやすくするため、「課題を聞く・内容を簡単に読みとる・劇の練習をする・学習の感想をいう」で、毎時間同じ流し方をした。
 - ㊦ 課題については指導者が提示することにした。課題を自分たちで見つけるのは難しいことと、次段階で子どもの十分な活動時間を取るためである。
 - ㊧ リーダーによる一問一答式で進めた。
 - ㊨ ひととおり練習した後に話し合いを持つことで学習の深まりを期待した。話し合いは、リーダーを中心に行い指導者もその一員として加わる形を取った。
 - ㊩ 「ふりかえりカード」で自己評価をし、それを元に互いに感想を言い合い自分のめあてを持つことにつなげた。このときもリーダーが進め、指導者は一員として感想を言うことにした。

授業を終えて

- ・小道具をそろえたり挿し絵を動画にして映し出したりしたことで、雰囲気作りが

でき子どもは意欲を持って活動できた。

- ・毎時間同じ流し方をくり返すことで、子どもたちは学習過程を体得しつつあり、学習の見通しを自分なりに持って動く様子も見られた。
- ・指導者が進め方についてリーダーに常に指示を出すことになった。低学年ではこの段階を踏む必要があると思われる。
- ・話し合いは活発とはいえないがどの子も一度は発言があった。指導者の発言を子どもは「指導」というより「助言、ヒント」として受け取っていた。しかし、話し合い活動での指導者の発言をどの程度にすべきなのか判断が難しい。
- ・自己評価で、いちばんの喜びと感じていたことは友達と楽しめたことであった。
- ・二年生の感想には具体性があり、学年差の大きさを感じる。
- ・「風がふきとばしました。」の場面で、吹き飛び方について意見の食い違いが生じ、それぞれが動いてみせて意見を交わした。
- ・掲示用の吹き出しの利用を思いついたり、舞台を校庭に移したり、活発さが出てきた。
- ・ビデオなどを使って、自分たちのことを客観的にみることを取り入れてもよかった。
- ・劇化をしようということで、目的がはっきりし練習を重ねるたびに子どもの表情が変わっていくのがわかった。

(講師：西播磨教育事務所 沖汐守彦先生)

成果

- ・学習活動を劇化にしぼったことで、学習過程(か②わ③か④み)にそったリーダー学習をとりいれやすくなり、以下のような成果がみられた。
- ・子どもが学習のみとおしを持つことができ、またやりたいことが見つけられるなど、子ども自身で活動の幅を広げようとする態度がみられた。
- ・はじめは劇に指導者が入ることに何も感じていないようであったが、まとめの段階に入ってくると、自分たちだけで劇を完成したいという願いを持つようになった。
- ・普段発言の少ない児童が、友達に演技について助言したり、しっかりした声を出せたりして学習が進められた。
- ・劇をよりよい、より楽しいものにしようという意欲から、自分の役について工夫し、それを出し合い互いの役や全体について子ども同士の話し合い、練り上げる場面がもてた。動作やせりふの付け方の工夫をしたり、創作をしたりする事は、読みの深まりを示すことと考える。

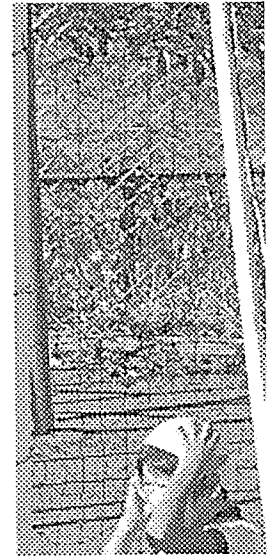
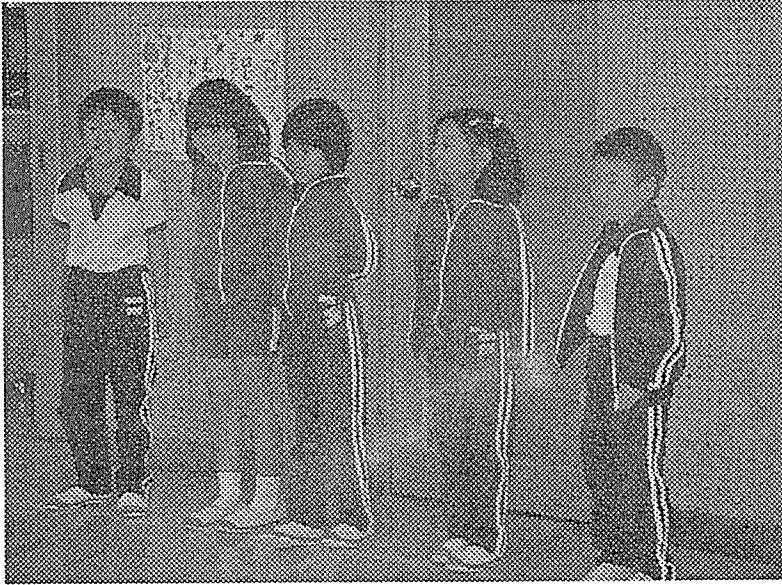
今後の課題

劇化は、リーダー学習において児童それぞれが役割を持ち学習活動を広げることに効果的であったが、読みをしっかり深められたとはいえない。読みを深めるために、リーダーの育成、話し合いの力をつけることなどが考えられるが、学年差、個人差の大きさをふまえたような手だてがあるのか手探りの状態にある。

一方で、少人数であるために、どんな場合においても一人ひとりが注目を浴びることはどの子にとってもよいこと、うれしいことなのか、疑問に感じることもある。

指導者側の押しつけになってはいないか、指導者の意識やあり方を見直すことも必要である。そして、コミュニケーションの扉を開きかけているこの時期だからこそ大事に扱いたい。このことが学習活動を広げ、かつ深めることにつながるのではないだろうか。

また、これまで物語文にしぼって授業を行ってきたが、説明文や作文、言語に関する教材をどのように扱うかが大きな課題である。



第1、2学年国語科学習指導案

指導者 岡田典子
上野由貴

1、題材 おむすびころりん
[1年]

2、目標

- ◎お話の筋や人物の気持ち、場面の様子を思い浮かべながら楽しく読み、はっきりした発音で音読することができる。(言語・理解)
- 句点、読点、行がえに注意して、文章を正しく視写することができる。(表現)
- 言葉のリズムに注意して、読んだり、暗唱したりすることができる。(表現)

3、学習の観点

昔話は、日本各地で語り伝えられきた楽しいお話で、昔話のもつ不思議さ、楽しさ、登場人物の人柄の良さが味わえる。この時期の児童は、登場人物に同化しやすく、おじいさん、ねずみになりきって音読をすることで、興味関心をもち、内容を理解できる。昔話「おむすびころりん」は、リズムカルに読めるように、散文の形式で構成されている。音読や暗唱をしたり、動きのある挿し絵をもとに動作化したりすることで、話の内容を理解し、豊かな学習が期待できる。

本学年の児童は、読書に興味、関心を持ち、学校図書もよく利用している。読み聞かせも好きで、人の読む物語を一生懸命聞いている。しかし、ひらがなを読んだり、書いたりすることが苦手で、絵だけを見て楽しんでることが多い。

この教材を扱うことにより、声に出して読み、体で表現することを取り入れ、自分から物語を読もうとする意欲を高めることにした。擬態語やくり返しの言葉を探し、歌うように読むことで声を出す喜びを感じとり、おじいさんの様子を言葉とあわせて考え、動作化させることにより、場面の移り変わりを読みとりやすいように、挿し絵をごとに文章を区切って読み進める。一人ひとりの児童が役割を持ち、劇をすることで意欲を持って学習に参加し、自分から読むことの楽しさを体験させたい。

4. 学習計画

第1次	言葉のおもしろさに着目して音読をする	2時間
第2次	おじいさんやねずみたちの様子を読みとる	2時間
	第1時 全文をいろいろな方法で音読する	
	第2時 登場人物の様子を動作化し、音読を楽しむ(本時)	
第3次	「おむすびころりん劇場」を開く	2時間

5. 本時の目標

おじいさんやねずみになって、音読を楽しむ

6. 準備

お面 挿し絵

1. 題材 おむすびころりん

[2年]

2. 目標

- ◎登場人物の気持ち、場面の様子や会話について想像を膨らませて読み、作品のおもしろさに気づく。(理解)
- 友だちと劇遊びをして楽しく遊ぶことができる。(表現)
- 易しい読み物の中から読みたい本を選び、楽しく読み通そうすることができる。(理解)

3. 学習の観点

昔から、日本各地で語り継がれてきた楽しいお話で、昔話の持つ不思議さ、楽しさ、登場人物の人柄の良さなどが味わえる。この時期の児童は、登場人物に同化しやすく、そのものになりきって音読することで、興味、関心をもち内容を理解できる。昔話「おむすびころりん」は、散文形式で一行空きの九連で表現されているので、話の場面、あらすじを読みとりやすく、豊かな学習が期待できる。

児童達は、「ふきのとう」「くまさん」でくり返しの表現から生まれるリズム感、躍動感に気づき音読に生かした。「スイミー」では、挿し絵も含め多様な表現法を発見して作品を楽しみ、作者についても興味をもった。しかし、自分で読みたい本を選び、想像豊かに読むことはまだ難しい。

そこで、物語を丸ごと楽しめる昔話を取り上げた。現実離れた昔話のおもしろさを味わうために、声に出して読んだり、体で表現することを取り入れることにした。繰り返し声に出して読むことで、七五調の語りに着目し歌うように読ませたい。劇場を開く際に、表現のおもしろさを取り上げ劇の宣伝をさせる。発展読書として「くまの子ウーフ」を取り上げることで、読書に対する興味や意欲を高めたい。

4. 指導計画(全10時間)

- 第1次 言葉のおもしろさに着目して音読をする.....2時間
- 第2次 音読を聞き合いながら、おじいさんやねずみたちの様子を読みとる..... 2時間
 - 第1時 全文をいろいろな方法で音読する
 - 第2時 登場人物を動作化し、音読と合わせる
- 第3次 おむすびころりん劇場を開く..... 2時間
- 第4次 「くまの子ウーフ」を読み合いウーフの世界を楽しむ.....4時間

5. 本時の目標

おじいさんの動きや言葉を考えて、友だちと楽しく音読をする。

6. 準備

お面 挿し絵

7、展開

[1年]

[2年]

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ・歌うように読むところとそのほかのところを意識できるようにする。 ・口の開け方、声の大きさに注意させ、評価することで意欲付けをする。 ・リズムに合わせて読むが、正しく読むことを優先させる。 ・おじいさんのしたことがわかる言葉と、挿し絵をもとにして動くようにさせる。 ・席を離れてもよいことを伝える。 ・小さな動きでも認める。 ・動きと同時に出たつぶやきを拾って、次の活動につなぎたい。 ・おじいさんを中心に考えさせるが、ねずみについてもふれる。 ・お面や板書で、おじいさんの気持ちにより近づけるよう工夫する。 ・考えにくい児童は、いくつかの例や、友だちの意見から選ぶよう助言する。 ・話し合いに入って生きにくい児童に声をかける。 ・話し合いがまとまるよう助言する。 ・2年生のよいところを見つけて、取り入れさせる。 ・お面を使用し、雰囲気を出す。 	<p>役割に分かれて音読をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさん ・うた ・地の文 <p>昔話であること、歌うように読むところ、リズムがあることを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>おじいさんやねずみになってよもう</p> </div> <p>2. おじいさんの動きを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たがやす ・つつみをひろげる ・おいかける ・のぞく ・みみをあてる ・おどりだす ・すべらせて ・とびこんだ ・おどったおどった ・ふりふり <p>3. おじいさんの言葉を、動きに合わせてつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つかれた ・おなかがすいた ・なんだろう ・またきこえるかな ・これはおもしろい ・たすけて ・おいしそう ・かわいいなあ ・おばあさん、おどろう ・すごいなあ <p>4. おじいさんの動きや言葉を入れて、役に分かれて音読をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさん ・うた ・地の文 <p>学年で 二学年で</p>	<p>が 課題をつかむ</p> <p>わ 話題を広げる</p> <p>か 考えを深める</p> <p>み みんなでまとめる</p>	<p>おじいさんやねずみになってよもう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生をリードして、役割を決めさせる。 ・このお話の特徴をいわせることで、音読の注意点を意識させる。また、このあとの活動に役立てる。 ・楽器を使って、リズムうちをして楽しい雰囲気にする。 ・挿し絵とおじいさんのしたことがわかる言葉をもとに動きを考える。 ・互いの動きを見あうことでより楽しい動きを想像できるよう促す。 ・おじいさんの言葉や、ねずみについてもとり上げる ・話しやすい雰囲気にする。 ・昔話を讀んだり聞いたりした経験を思い起こさせ、昔話に合う言葉づかいにできるだけさせる。 ・自分と友達の見解を合わせることで楽しくできることを感じ取らせる。 ・おじいさんの気持ちを確かめるために少し間を空けながら音読をさせる。

第1、2学年国語科学習指導案

指導者 岡田典子
上野由貴

1、題材 くじらぐも

[1年]

2、目標

◎様子を思いうかべながら、はっきりした声で音読したり、人物に同化して読み方を工夫したりすることができる。(理解)

○「～も」の使い方に注意して、視写・聴写し、対比する表現の仕方が工夫できる。(表現)

○片仮名を正しく読んだり、書いたりできると同時に語句の意味を正しくとらえ、その使い方を理解できる。(言語)

3、学習の観点

1、2年生の時期に読書の楽しさを味わうことは、生涯にわたって読書に親しむ態度を育てることにつながる。読む力がつくことにより、読む楽しさやおもしろさを実感し、内容を的確に理解することができる。本教材は、易しい読み物で、場面の様子など想像を広げながら読んだり、音読したりすることができる。

本学年の児童は、男子2名、女子1名、計3名である。本に興味、関心を示し、読み聞かせをすると話に聞き入る。しかし、自分で読もうとせず、絵を見て楽しむだけで、文章を読むには至らない。

そこで、本教材を扱うことにより、音読を通して想像力を広げ、話の楽しさを味わわせるようにする。導入時に実際に校庭で雲をながめて遊び、楽しく話を読むきっかけにしたい。挿し絵を効果的に使い、話の世界に引き込み、動作化や役割読みをしようという意欲につなげるようにする。子どもたちとくじらぐものやりとりを重ねることですっきりとした声で音読できるようになると考える。

4、指導計画(全14時間)

第1次	全文を読み、物語のあらすじをつかむ	3時間
第2次	場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る	7時間
第3時	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る(本時分)	
第3次	役割を決めて音読をし、くじらぐもの劇をする	3時間
第4次	片仮名の読み書きをする	1時間

5、本時の目標

くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと応援するくじらぐもの様子を読み取ることができる。

6、準備 挿し絵

1、題材 くじらぐも

[2年]

2、目標

◎場面の様子をとらえながら、人物に同化して音読を工夫し、登場人物の心の触れ合いに関心をもつことができる。(理解)

○くじらぐもに手紙を書いて発表することができる。(表現)

○かぎの使い方を理解し、主述、修飾、被修飾の関係に注意すると同時に、いろいろな言葉に興味をもつことができる。(言語)

3、学習の観点

1、2年生のこの時期に読書の楽しさを味わうことは、生涯にわたって読書に親しむ態度を育てることにつながる。読む力がつくことにより、読む楽しさやおもしろさを実感し、内容を的確に理解することができる。本教材は、場面の様子など想像を広げながら読んだり、音読したりすることができる。

本学年の児童は、男子1名、女子2名、計3名である。読書に親しみ、読む力が確かな児童と挿絵に興味関心をもち、絵で内容を想像する児童がいる。文章の内容を理解し、想像を広げるのに多少、差がある。

そこで、本教材を扱い、主語、述語や会話文の初めや終わりの省略を補うことで、場面の様子や人物の気持ちを読み取る助けにしたい。動作化とあわせて会話文を子どもたちとくじらぐもになってやりとりすることの積み重ねにより、豊かな想像につなげたい。そして、くじらぐもに対する思いを手紙という形でまとめ、物語の余韻にひたらせたい。

4、指導計画(全14時間)

第1次	全文を読み、物語のあらすじをつかむ	3時間
第2次	場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る	7時間
第3時	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る(本時分)	
第3次	役割を決めて音読をし、くじらぐもに手紙を書く	2時間
第4次	言語と文字の練習をする	2時間

5、本時の目標

くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと応援するくじらの様子や気持ちを読み取ることができる。

6、準備 挿し絵

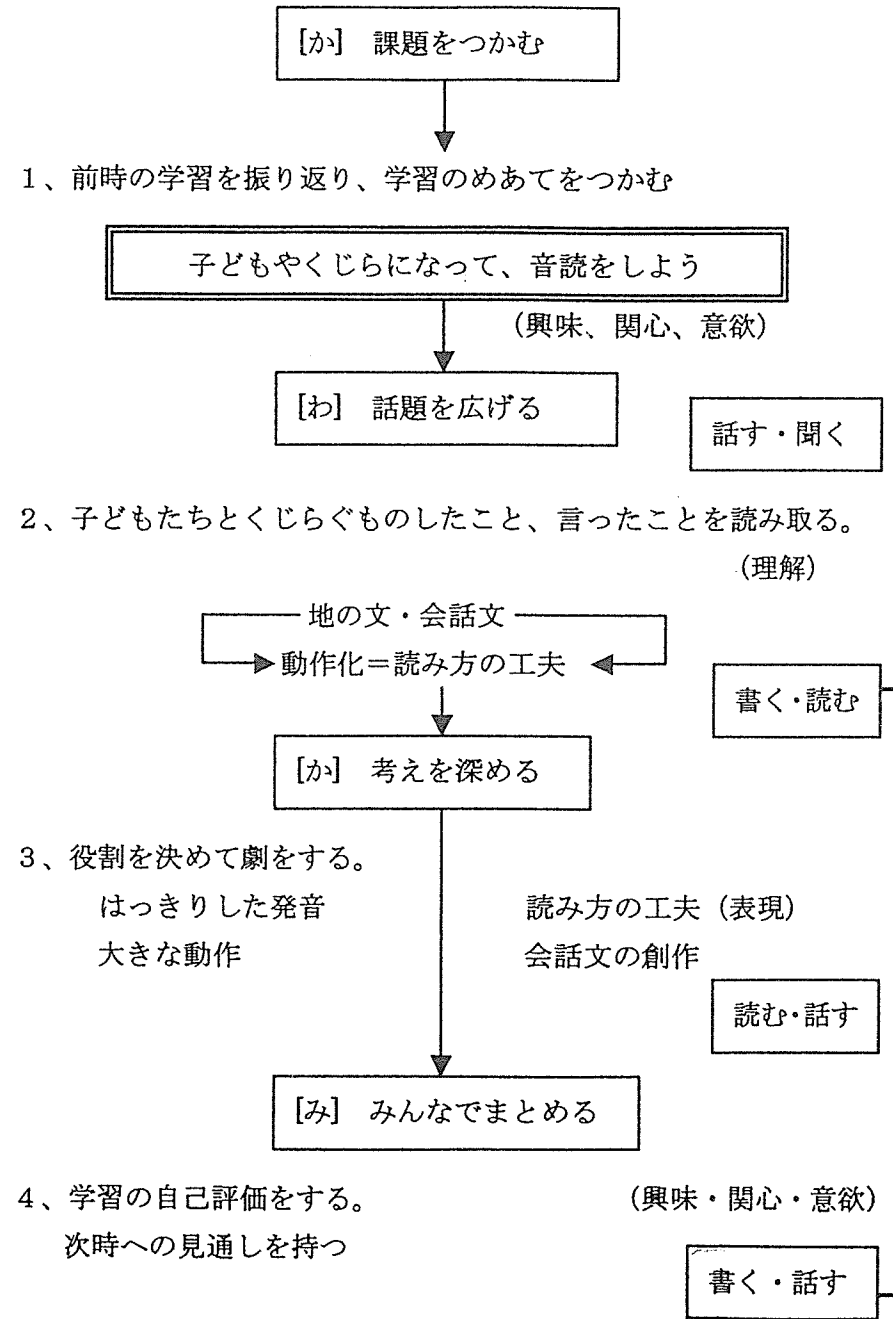
7、展開

[1年]

[2年]

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習のめあてを把握させる。 大きい声で読むように促す。(T2) 「 」はくじらぐもとみんなが言った言葉であることをおさえさせ、だれが言ったのか考えるように指示する。 スクリーンのくじらぐもにむかって会話文を読むように助言する。 動作を入れながら読む練習をさせる。 希望する役を自分から言うように促す。 自分のセリフを視写するようにし、とまどっている児童には個別に指導する。(T2) 大きい声で、はっきりした発音で読めるように口のあけ方に気をつけさせる。 自己評価ができるようにする。 自分のセリフを用紙にいてねいに書くことができたか、大きい声で言えたか、動作を入れることができたか自己評価をさせる。(質問形式・T2) 	<p>1、学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>③の場面を子どもたちとくじらぐもになって音読しよう。</p> </div> <p>2、子どもたちとくじらぐものしたことと言ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「よшきた。くものくじらにとびのろう。」(みんなは、言った) 「天までとどけ、一、二、三」(みんなは、ジャンプした) 「もっとたかく。もっとたかく。」(くじらぐもは、言った) <p>3、役割を決めて、劇をすることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動作化 ----- ジャンプ、よびかけなど 声の大きさ ----- くじらぐもとみんなの位置 役割 ----- ナレーター、くじらぐも、みんな 小道具 ----- くじらぐもの絵など <p>4、今日の学習の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちや自分のよかったところ(動作、声の大きさ等) わかったこと(くじらぐもとみんなと仲良しになった等) 次にしたいこと(また劇をしたい等) 	<p>か 課題をつかむ</p> <p>わ 話題を広げる</p> <p>か 考えを深める</p> <p>み みんなでまとめる</p>	<p>1、学習のめあてをつかむ。</p> <p>2、子どもたちとくじらぐものしたことと言ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「よшきた。くものくじらにとびのろう。」(みんなは、言った) 「天までとどけ、一、二、三」(みんなは、ジャンプした) 「もっとたかく。もっとたかく。」(くじらぐもは、言った) <p>3、役割を決めて、劇をすることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動作化 ----- ジャンプ、よびかけなど 声の大きさ ----- くじらぐもとみんなの位置 役割 ----- ナレーター、くじらぐも、みんな 小道具 ----- くじらぐもの絵など <p>4、今日の学習の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちや自分のよかったところ(動作、声の大きさ等) わかったこと(くじらぐもとみんなと仲良しになった等) 次にしたいこと(また劇をしたい等) 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習のめあてを把握させる。 学習リーダー役に課題を読むように促す。 会話文と地の文を分けさせる。 子どもたち(地上)とくじらぐも(空)の位置関係おさえ、読む練習をさせる。 声の大きさや動作を入れながら読む練習をさせる。 三十センチ、五十センチについてふれ、気持ちの高ぶりに気づかせるようにする。 学習リーダー役を中心に役割を決めさせる。 教科書の文に人物の気持ちを付け加えられるように助言する。 空へ吹き飛んだ場面をスクリーンに映し、雰囲気作りをする。(T2) 自己評価をさせる。 気持ちを考えてセリフを言うことができたか、動作を入れたか、声の大きさに気をつけたか等、評価用紙に記入するように指示する。(T2)

学習構造図



個人カルテ		
学年	氏名	個人の目標
1		<ul style="list-style-type: none"> ひらがな、片仮名、漢字を正しく読む。 人物になりきり楽しんで学習活動をする。 はっきりとした発音をする。
		<ul style="list-style-type: none"> ひらがな、片仮名、漢字を正しく読む。 動作化を友だちと楽しむ。 しっかりと声を出す。
		<ul style="list-style-type: none"> 漢字、片仮名を正しく読む。 動作化することにより場面の様子をつかむ。 動作を大きくする。
2		<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさ、読む速さを工夫して音読をする。 人物の気持ちを想像し、会話文に付け足して劇化する。 友だちに音読の仕方を助言できる。
		<ul style="list-style-type: none"> 漢字、片仮名を正しく読む。 動作化を友だちと楽しむ。 はっきりと言える。
		<ul style="list-style-type: none"> 学習リーダーの役を行おうとする。 動作化や会話文の読み方を工夫できる。 様子や気持ちを想像して音読に生かせる。

ふりかえりカード

ゆきえ

ふりかえりこうもく	はんせい
手をていはいにかくことができたか	
大きい声で書えたか	
どうこを入れておけが書えたか	
友だちと楽しくできたか	
よかったです でした	◎ みんなと楽しく できてよかった。

ふりかえりカード

ゆきえ

ふりかえりこうもく	はんせい
手をていはいにかくことができたか	
大きい声で書えたか	
どうこを入れておけが書えたか	
友だちと楽しくできたか	
よかったです でした	◎ セリフも考えたのが たいへんでした。

ふりかえりカード

ゆきえ

ふりかえりこうもく	はんせい
手をていはいにかくことができたか	
大きい声で書えたか	
どうこを入れておけが書えたか	
友だちと楽しくできたか	
よかったです でした	◎ セリフ、かい いたりがよかったです。 みんなと楽し ました。

えとも えん
まのし て な 犬
すみのい に 大
か。ぬ花ますか い
にたす。こ く
いら。う じ
っい か、 ら
たい か ぐ
らで かん も
あす。 が ち

いに山じ
でおのら白
すべぐい
こんうも白
とえさいま
うでんま
うまいへ
たっ白
べしふい
たよじく

か ヲ う
わくクご一をわや
らじだう人したせ
ならなへたたしし
いぐあ いげいもい
んもとくででのく
でさいんのす。じ
すんいかり。てら
か。はま口た ぐ
井した マい りも
が チす。 りよさん
こ

② 3・4学年 国語科（総合）

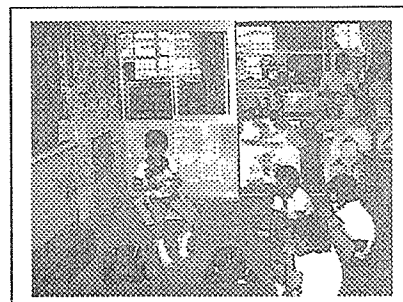
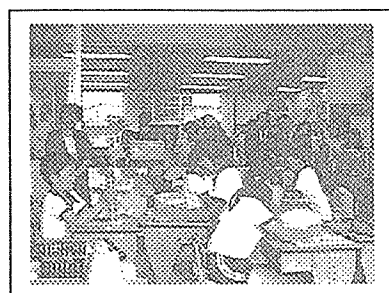
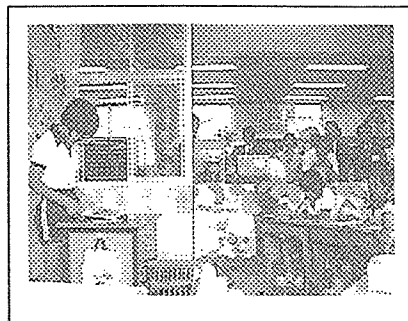
題材 わたしのすすめるこの一さつ

「読書指導」と「総合的な学習」

本教材で「読書指導」と「総合的な学習」の関連を図り、対話力・説明力の育成に焦点を当てた授業に取り組んだ。

言語、とりわけ話し言葉によるコミュニケーションによって相互交流・相互理解を図る能力を養うことをねらいとして、自分の紹介したい本の楽しさ、おもしろさをわかりやすく伝える読書紹介をする。これは、聞き手を意識して聞き手とのやりとりを楽しむ対話型の話し方、説明力の育成をするの適した教材であると考えた。

1、2年対象にすることで、話し方、紹介の仕方に工夫をこらさないといけなくなる。話に引きつけるには、わかりやすい言葉を用いて語りかけるような口調で、時には、応答し合いながら話すこと、本の帯で紹介するだけでなく、本の表紙やさし絵などの具体物を提示しながら話すことが必要となってくる。紹介の仕方を考える中で、このような聞き手を意識した説明力を身につけさせたいと考えた。



授業を終えて（複式教育講座公開授業）

- ・ ガイド学習をするには、児童との打ち合わせを充分にする必要がある。それだけでは不十分で、子どもに任せられるように普段からパターン化して、繰り返して指導する必要がある。子どもが自信を持ったら、次は自分たちでアレンジしながら進めていける。
- ・ 1、2年を相手に意欲的に取り組んでいた。学習後も1・2年生との交流の深まりを見せ、本についての話が弾んでいた。
- ・ 学習後、朝会で読書紹介をした。この活動を通して、児童の積極性が出てきた。朝の読書タイムの本をしっかりと読むことへもつながった。

題材 川上パンフレットを作ろう

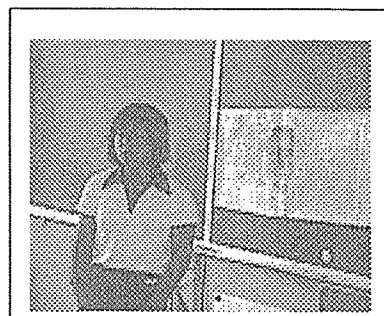
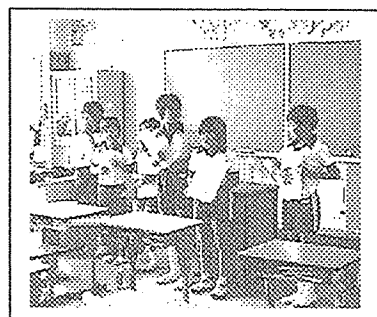
「書きたいことを分かりやすく作文する」と「総合的な学習の時間」

本教材で、「書きたいことを分かりやすく作文する」と「総合的な学習」の関連を図る。

家の人や地域の人に、今と昔のくらしの違いや川上の好きなところを聞き取る取材活動をし、聞き取ったことや考えたことを文章化し発表する。

この活動を通してふるさとに対する理解を深め、自分の意見を持つことをねらいとする。自分の周りの人に対する取材活動しながら、「わたしたちの川上」のパンフレットを作っていくことにした。

1学期に「わたしの進めるこの一冊」で「読書指導」と「総合的な学習」の関連をはかった学習をした。この学習を通して、人に分かりやすく説明する力や分かりやすく話す、表現力を身につける学習に取り組む。そして、会話を自分の友達同士だけで楽しむだけに終わらず、自分の家族や地域の人々に広げたい。家の人や地域の人にインタビューをし、ふるさとのことを知り自信を持ってふるさとを語れるように子供の意識を高めたいと願い本単元を設定した。



授業を終えて

- ・ 子どもに任せられるように普段からパターン化してガイド学習を行った。
- ・ 子どもで出来ることは子どもにさせきること、子供が自信を持つようになる。
- ・ 教師は、待つことが大切。司会を子どもにさせ、発表型でなく対話で親と語るように工夫する方がこどもの力となる。
- ・ メモをとることは、大事な学習である。
- ・ 調べたことの発表の時、子どもの手でしていたのはいい。しかし、もっと見る人にアピールできる資料の提示のしかたを指導する必要がある。

第3・4学年国語科学習指導案

指導者 大塚裕美子

1. 題材 わたしのすすめるこの一さつ
(三年)

2. 目標

- ◎ 本を手にした人が思わず読みたくなるような本の帯の書き方を工夫する。
- この本の何が気に入ったのか、心に残ったのはどんな部分だったのかを考えて、それを伝える相手にわかる短い文章で、自分の気に入った本の紹介をする。
- 作品を主体的に選んで読み、読書の楽しさを味わうことが出来る。

3. 学習の視点

本教材で「読書指導」と「総合的な学習」の関連を図り、コミュニケーションの基盤の育成に焦点を当てた授業を構想することにした。読書の楽しさを大切にしながら、この本の何が気に入ったのか、心に残ったのはどんな部分だったのかを考えて、それを相手に伝える「本の帯を作る。」という学習、その楽しさを伝える活動をする中でその本の魅力を全体的につかむことができていく。「本の帯」を作り紹介する活動は、一方的な発表の仕方であるかもしれないが、コミュニケーションの基盤を育成をするの適した教材である。

本学級の3年生は、男子1名、女子1名計2名である。毎朝、朝の活動の時間本を借りて読んでいる。本を読むことは、好きで楽しんで読んでいる。しかし、個人差があり、話を聞いたり、文章を読んで内容を理解したりするのに時間のかかる児童もいる。また、自分の伝えたいことを目的を持ってアピールするという活動も初めてである。

そこで、学校図書で購入した本の帯をとっておいてみせるなど、具体的な手だてをしながら、書きにくい子には、表紙の絵を写したり、目次から好きな項目を選んで書いたりするだけでも「本の帯」ができることをしらせたりしながら取り組ませたい。そして、紹介する相手が1、2年であることを意識して文字の大きさや、形、どんな絵を入れるかななどを工夫させたい。ひと目で分かる紹介文、思わず手に取りたくなるような文など表現の工夫をさせたい。

4. 学習計画(全6時間)

- | | | |
|-----|---|-----|
| 第1次 | おすすめの本を選び、本のどこをどのように
1、2年に紹介したいのかを考える。 | 1時間 |
| 第2次 | | |
| 第1時 | 紹介する本の帯づくりをする。 | 2時間 |
| 第2時 | 聞き手を引きつけるわかりやすい紹介文を考える | 1時間 |
| 第3時 | 読書紹介のリハーサルをする(本時分) | 1時間 |
| 第3次 | 1、2年に読書紹介する。 | 1時間 |

5. 本時の目標

ペアを交代しながら本の帯の紹介したり、工夫点・改善点を伝え合うことにより
1、2年生を引きつける、わかりやすいものに工夫していくことができる。

6. 準備 前時に書いた本の帯

1. 題材 わたしのすすめるこの一さつ

(四年)

2. 目標

◎ 1, 2年という聞き手を意識した話し方や内容を工夫し、適切な言葉遣いで自分の紹介したい本の楽しさ、おもしろさをわかりやすく伝える学習をする中で自らも読書に親しむ意欲を持つことができる。

○ おもしろかったことや、感動したことを伝えるには何を中心に書けばいいかを考えて書くことができる。

3. 学習の視点

本教材で「読書指導」と「総合的な学習」の関連を図り、対話力・説明力の育成に焦点を当てた授業を構想することにした。「総合的な学習」に取り組む中で、言語、とりわけ話し言葉によるコミュニケーションによって相互交流・相互理解を図る能力が求められてくる。自分の紹介したい本の楽しさ、おもしろさをわかりやすく伝える読書紹介は、聞き手を意識して聞き手とのやりとりを楽しむ対話型の話し方、説明力の育成をするの適した教材である。

本学級の4年生は、男子1名、女子3名計4名である。児童は、読書が好きである。毎朝の活動に10分間読書を組み入れたり、機会をとらえては読み聞かせをしたりして読書へと誘ってきた。そのため、読んだ本の量は多くなってきた。しかし、まだまだ、読んだ本の感動を友達と語るより、昨日のテレビの番組で話が盛り上がっているという現状である。

そこで読書紹介を1, 2年対象にすることにした。読書紹介をするとなれば、本を選び、読むことが必然的に求められ、話し方、紹介の仕方に工夫をこらす必要が出来る。1, 2年生を話に引きつけるには、わかりやすい言葉を用いて語りかけるような口調で、時には、応答し合いながら話すこと、本の帯で紹介するだけでなく、本の表紙や、さし絵などの具体物を提示しながら話すことが必要となってくる。紹介の仕方を考える中で、このような聞き手を意識した説明力を身につけさせたい。

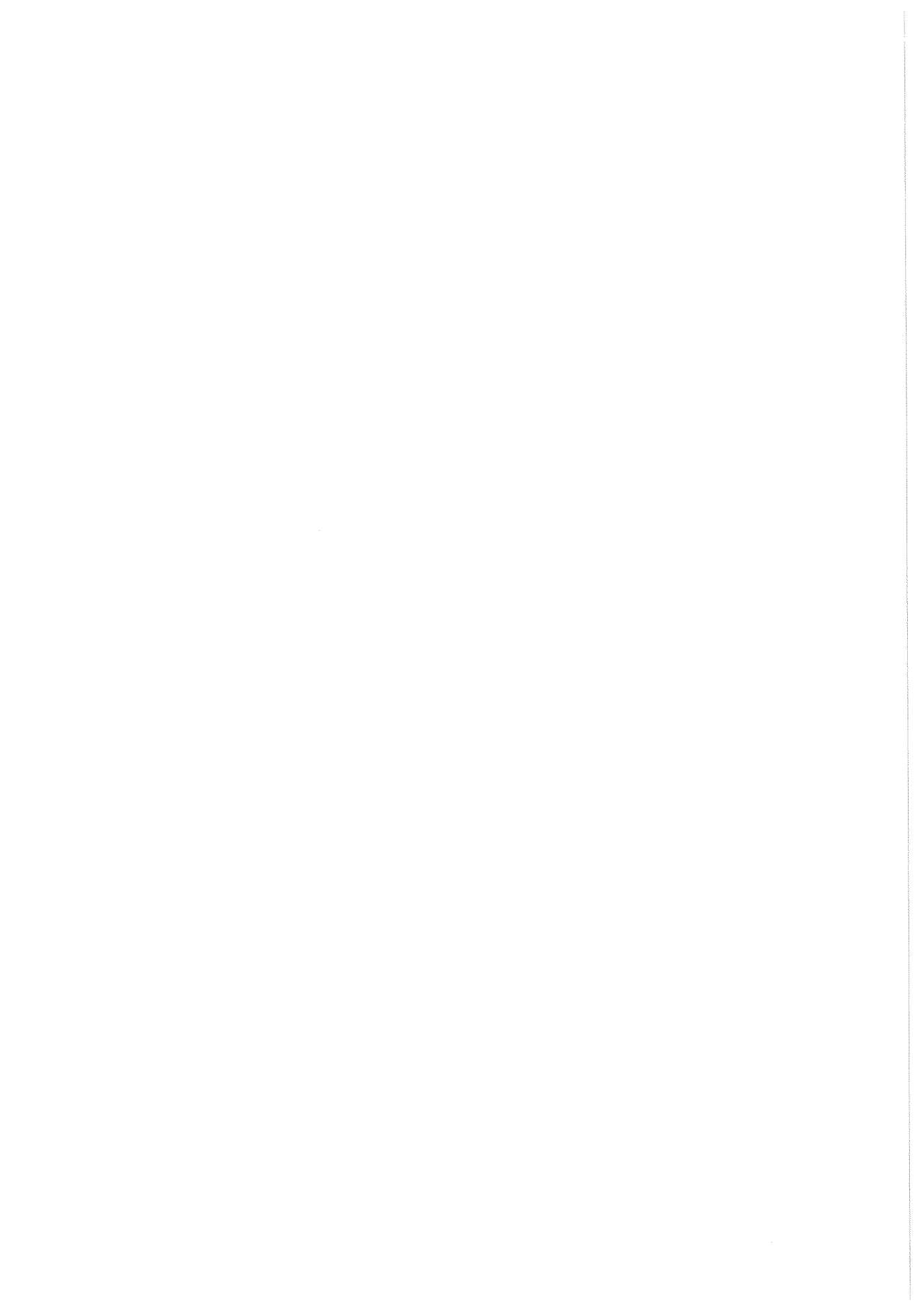
4. 学習計画 (全6時間)

第1次	おススメの本を選び、本のどこをどのように 1, 2年に紹介したいのかを考える。	1時間
第2次		
第1時	紹介する本の帯づくりをする。	2時間
第2時	聞き手を引きつけるわかりやすい紹介にするための 工夫点を話し合う	1時間
第3時	読書紹介のリハーサルをする(本時分)	1時間
第3次	1, 2年に読書紹介する。	1時間

5. 本時の目標

ペアを交代しながら読書紹介を聞き合い、工夫点・改善点を伝え合うことにより1, 2年生にとってわかりやすい、1, 2年生を引きつけるものにしていくことができる。

6. 準備 前時に書いた本の帯と紹介メモ 本の表紙

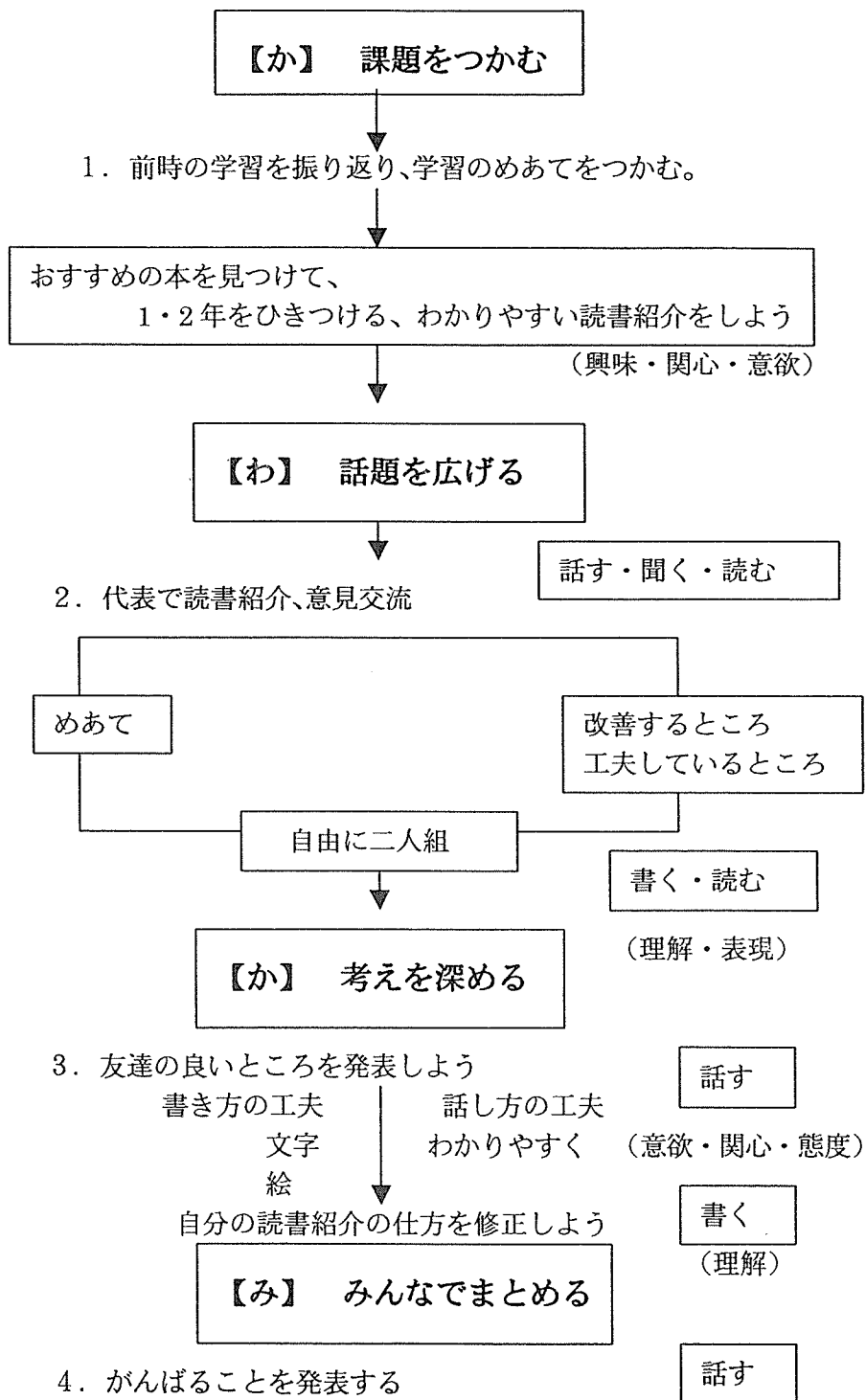


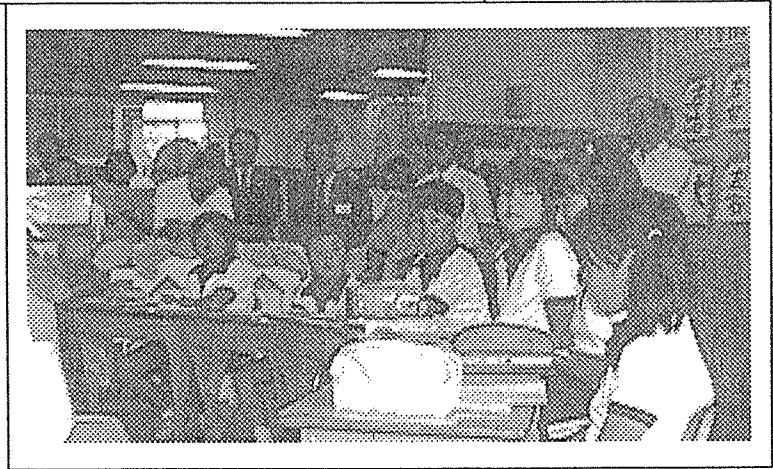
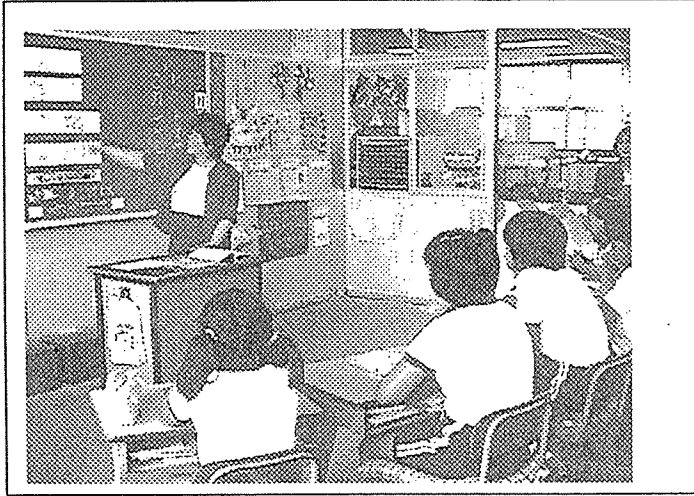
7. 展開
〔3年〕

〔4年〕

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項
<p>・子ども達が前時に書いた、おすすめの本のおびの工夫を紹介したり、困っていることを発表したりして本時の方向付けをする。</p> <p>・声の大きさやリズムに気をつけ、人にわかりやすく言うことに気をつけさせたい。</p> <p>・人にわかりやすくするための絵や文字の大きさの工夫に着目させたい。</p> <p>・見た目に引きつけられやすいように文字を大きく、ていねいに書くなどを見つけさせたい。</p> <p>・発表する態度にも着目させたい。</p> <p>・人の良いところを取り入れさせ、紹介された本が、思わず読みたくなるような工夫をさせたい。そして、12年に紹介することをまちきれないような期待で いっぱいにさせたい。</p>	<p>児童の活動</p>	<p>学習過程</p> <p style="text-align: center;">か 課題をつかむ</p> <p>1. 学習のめあてをつかみ、前時の学習を振り返る。。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おすすめの本を見つけて、 1. 2年を引きつけるわかりやすい読書紹介を工夫しよう。</p> </div> <p style="text-align: center;">わ 話題を広げる</p> <p>2. 読書紹介を聞き、意見交流をする ○代表による読書紹介の発表の練習をする。 ・工夫しているところ ・改善するところ ○ペアになり、読書紹介の発表の練習をする。 ・お互いに工夫点改善点をアドバイスし合う。 ・ペアを交代して、お互いに聞き合う。</p> <p style="text-align: center;">か 考えを深める</p> <p>3. 友達の良いところを発表しよう。 ・文字が大きい ・ていねいに書けている ・にこにこしていた。 ・身振り手振りを入れていた。 ・聞いている人に話しかけている。 ○自分の読書紹介の仕方を修正しよう。 ・書き加える。 ・言い方をなおす。</p> <p style="text-align: center;">み みんなでまとめる</p> <p>4. 友達のアドバイスを聞いて本番にがんばろうと思ったことを発表しよう。</p>	<p>児童の活動</p>	<p>教師の支援と配慮事項</p> <p>・おすすめの本のおもしろさを1,2年にも分かるように紹介文を書くことを意識させる。</p> <p>・本の帯については、見た目にも引きつけられやすいように文字を大きくていねいに書くといいことなどを見つけさせたい。紹介文については、中心になる部分が強調出来ているかを意識させたい。</p> <p>・お互いに発表を聞き合うことにより、人に分かるようにしゃべるためには、声の大きさや速さ、間の取り方などを工夫したり、聞く相手の反応を意識していかなければいけないことをわからせたい。</p> <p>・友達の良いところに着目させる</p> <p>・人の良いところを取り入れさせ、紹介された本が、思わず読みたくなるよう工夫する。 1. 2年に紹介することをまちきれないような期待で いっぱいにさせたい。</p>

学習構造図





学年	名前	個人カルテ
3年	S	<ul style="list-style-type: none"> ・文字をていねいに書くことができる。 ・言葉をはっきり言うことができる
	MA	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見をしっかり聞くことができる。
4年	H	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文をしっかり読むことができる。 ・伝えたいことを筋道を立ててはなすことができる。
	R	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文の内容について意欲を持って見直しができる。
	MD	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介の仕方や、話し方を創意工夫することができる。
	ME	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの発表の相違点や共通点を考えながら聞くことができる。

第3・4学年 総合科学習指導案

指導者 大塚裕美子

1. 題材 わたしたちの川上

〔三年〕

2. 目標

- ◎ 聞いたり見たりした話を理解して感想を持つことができる。(理解)
- 調べたことをメモに取り聞いている人にわかるように文章に書いたり資料にまとめたりして表現することができる。(表現・言語)
- 報告しようとすることを聞き手の前ではっきりと発表することができる。(表現)

3. 学習の視点

本教材で、「書きたいことを分かりやすく作文する」と「総合的な学習」の関連を図る。家の人や地域の人に、今と昔のくらしの違いや川上の好きなところを聞き取る取材活動をし、聞き取ったことや考えたことを文章化し発表する。この活動を通してふるさとに対する理解を深め、自分の意見を持つことをねらいとする。

本学級の3年生は、男子1名、女子1名計2名である。1学期には「わたしのすずめるこの一さつ」の学習で自分の伝えたいことを目的を持ってアピールするという活動を意欲的に行った。1. 2年生に読み聞かせをしたり、朝会で本の帯を発表したり、学校内では喜んで取り組んでいた。しかし、人前で自分の考えや知っていることを発表することについては、まだまだ抵抗がある。

そこで、自分の周りの人に対する取材活動を広げおじいちゃんおばあちゃんに、ゲストティーチャーになってもらい、「わたしたちの川上」のパンフレットを作っていくことにした。この学習を通して、人に分かりやすく説明する力や分かりやすく話す表現力を身につける学習に取り組む。そして、自分の友達同士だけで会話を楽しむだけに終わらず自分の家族や地域の人々とのふれあいを積極的に行い、自然なコミュニケーションが取れる能力を養う。家の人や地域の人にインタビューをし、ふるさとのことを知り自信を持ってふるさとを語れるように子供の意識を高めたい。

4. 学習計画 (全13時間)

- | | | |
|-----|--|-----|
| 第1次 | 色々なパンフレットを集めよう。そして、自分たちのパンフレットの内容を考えよう | 1時間 |
| 第2次 | 川上のパンフレットの活動計画をしよう | |
| 第1時 | 老人会の役員の人に昔の川上の暮らしや、遊びを聞こう | 1時間 |
| 第2時 | 川上のあちこち探検をしよう。川上小のアンケートをとろう | 4時間 |
| 第3時 | お母さんにゲストティーチャーになってもらおう (本時分) | 1時間 |
| 第4時 | おじいちゃんおばあちゃんにゲストティーチャーになってもらおう | 1時間 |
| 第5時 | 村の人たちにインタビューをしよう | 2時間 |
| 第3次 | パンフレットを仕上げよう | 3時間 |

5. 本時の目標

お母さんにゲストティーチャーになってもらい、川上のよさをインタビューしてパンフレットの参考にしよう。

6. 準備 取り寄せたパンフレット・今まで取材した記事・メモ帳

1. 題材 わたしたちの川上

〔四年〕

2. 目標

- ◎ 地域の人との交流の中から、ふるさとのよさをまとめることができる。(理解)
- 調べたことをメモやカードに従って、読み手によくわかる客観的な文章を書くことができる。(表現・言語)
- メモを取りながら取材した内容を整理して話し合うことができる。(表現)

3. 学習の視点

本教材で、「書きたいことを整理して作文する」と「総合的な学習」の関連を図る。家の人や地域の人に、今と昔のくらしの違いや川上の好きなところを聞き取る取材活動をし、聞き取ったことや考えたことを文章化し発表する。この活動を通してふるさとの対する理解を深め自分の意見を持つことをねらいとする。

本学級の4年生は、男子1名、女子3名計4名である。1学期には「せいそう工場見学」で見学メモの学習をしている。また、「わたしのすすめるこの一さつ」の学習で自分の伝えたいことを目的を持ってアピールするという活動を意欲的に行った。1、2年生に読み聞かせをしたり、朝会で本の帯を発表したり、学校内では喜んで取り組んでいた。しかし、人前で、自分の考えや知っていることを発表することについては、まだまだ抵抗がある。自分たちの住む地域についての親しみや関心は強いのだが、客観的な表現力を持たないため、どう川上のよさを言えばいいのかわからないと言う現状である。

そこで、自分の周りの人に取材活動をしながらか「わたしたちの川上」のパンフレットを作っていくことにした。この学習を通して人に分かりやすく説明する力や分かりやすく話す表現力を身につける学習に取り組む。そして、自分の友達同士だけで会話を楽しむだけに終わらず自分の家族や地域の人々とのふれあいを積極的に行い、表現する事への抵抗を無くしたい。家の人や地域の人にインタビューをし、ふるさとのことを知り、自信を持ってふるさとを語れるように子供の意識を高め発表の方法を考えさせたい。

4. 学習計画 (全13時間)

- | | | |
|-----|--|-----|
| 第1次 | 色々なパンフレットを集めよう。そして、自分たちのパンフレットの内容を考えよう | 1時間 |
| 第2次 | 川上のパンフレットの活動計画をしよう | |
| 第1時 | 老人会の役員の人に昔の川上の暮らしや、遊びを聞こう | 1時間 |
| 第2時 | 川上のあちこち探検をしよう。川上小のアンケートをとろう | 4時間 |
| 第3時 | お母さんにゲストティーチャーになってもらおう (本時分) | 1時間 |
| 第4時 | おじいちゃんおばあちゃんにゲストティーチャーになってもらおう | 1時間 |
| 第5時 | 村の人たちにインタビューをしよう | 2時間 |
| 第3次 | パンフレットを仕上げよう | 3時間 |

5. 本時の目標

お母さんにゲストティーチャーになってもらい、川上のよさをインタビューしてパンフレットの参考にしよう。

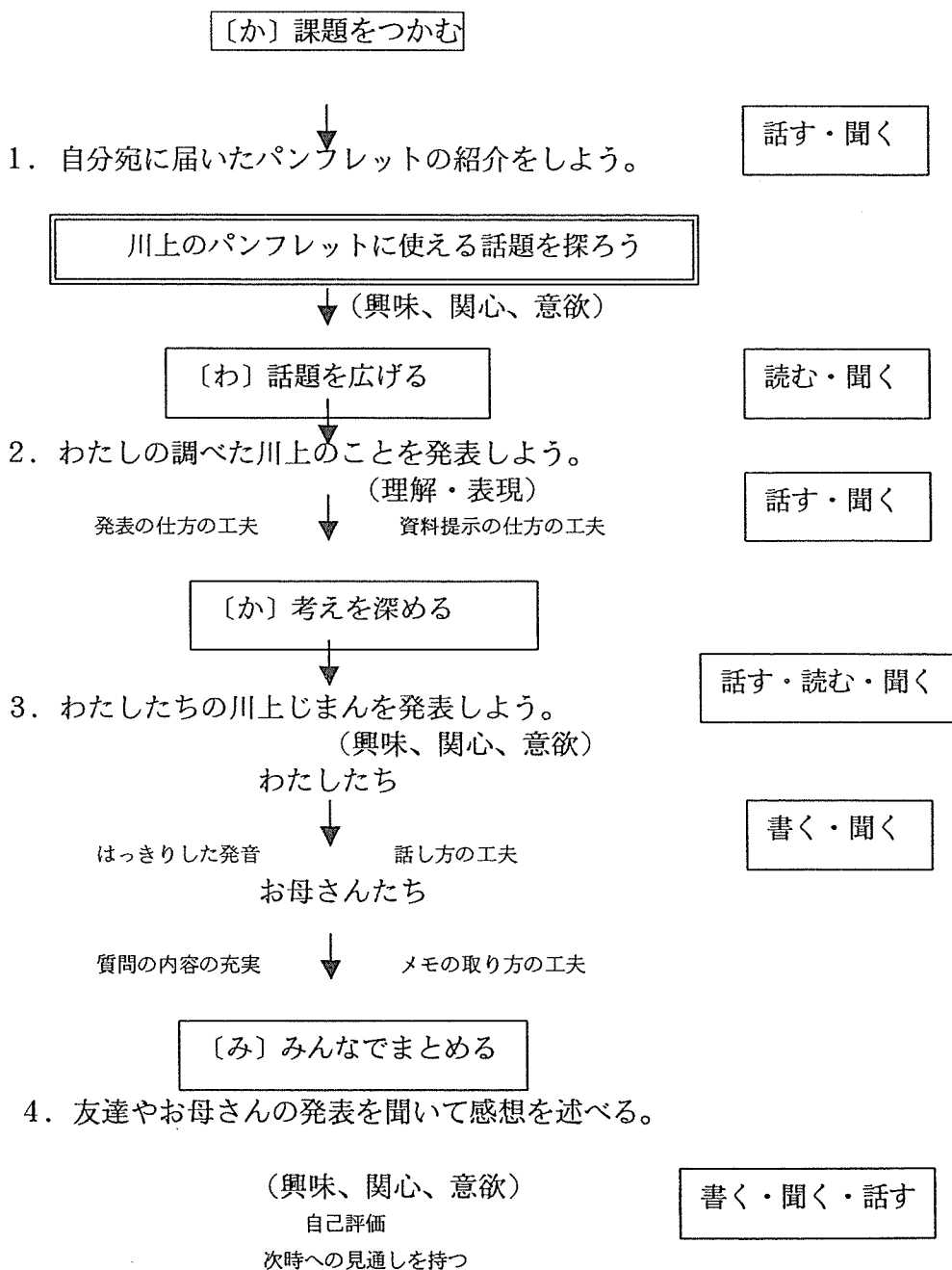
6. 準備 取り寄せたパンフレット・今まで取材した記事・メモ帳

7. 展開
〔3年〕

〔4年〕

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で、ゆっくりはっきり言えるように支援する。 ・パンフレットの好きなところを発表させ意欲を持たせる。 ・自信のない児童については、言葉をはっきり発表させるため、事前によく練習させる。 ・子ども達が前時に調べた川上のことを、聞いている人にわかるように発表する。 ・人にわかりやすく言うためには、声の大きさやリズムが大切である事に気づかせたい。発表する態度にも気をつけさせたい。 ・聞きながらメモを取らせる。 ・4年生の子に混じっても、自由に意見が出せるような雰囲気作りをする。 ・自分の出したアイデアのパンフレット作りの中心になれることを告げ、意欲を持たせる。 		<p style="text-align: center;">か 課題をつかむ</p> <p>1. 自分宛に届いたパンフレットの紹介する。 北海道・新潟・岐阜・兵庫（洲本・豊岡）・沖縄</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>川上のパンフレットに使える話題を探ろう</p> </div> <p style="text-align: center;">わ 話題を広げる</p> <p>2. わたしの調べた、川上のことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春祭り ・とのみね ・地藏盆 ・おりん堂 <p style="text-align: center;">か 考えを深める</p> <p>3. わたしの川上じまんを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わたしたち <ul style="list-style-type: none"> ・とのみね ・太鼓 ・自然 ○お母さん <ul style="list-style-type: none"> ・自然 ・村人 <p style="text-align: center;">み みんなでまとめる</p> <p>4. 友達やお母さんの発表を聞いての感想を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットに入れたい内容について話し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・届いたパンフレットの気に入っているところを発表させ川上パンフレットに取り入れたいアイデアがあれば、それも発表させる。 ・人前で照れないでしっかり声を出せるように、何でも言える雰囲気を作り、支援する。 ・子ども達が前時に調べた川上のことを資料を提示しながら、聞いている人にわかるように発表できるように支援する。 ・人に分かるようにしゃべるためには、声の大きさや速さ、間の取り方などを工夫したり、聞く相手の反応を意識しなければいけないことをわからせたい。 ・自分の川上じまんを考えさせた後、校内で取ったアンケートの結果を提示させることで、客観的な物の見方についても考えさせる。 ・あらかじめ家に電話をしておき、児童に分かりやすい言葉でまとめてもらえるよう、質問の趣旨について連絡しておく。 ・良いところを取り入れさせ、思わず読みたくなるようなパンフレットを作る意欲を持たせる。 ・次時への意欲を持たせる。

学 習 構 造 図



学年	名前	個人カルテ
3年生	S	<ul style="list-style-type: none"> ・口をきちんとあけ、言葉と言葉の間を取って、わかりやすく発表する。 ・パンフレットのアイデアをのびのび発表する。
	MA	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って司会に挑戦する。 ・自分の出来ることを人に頼らずにする。
4年生	H	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のイメージメーカーの役割をのびのびと果たす。 ・早口にならないように気をつけて話す。
	R	<ul style="list-style-type: none"> ・照れると、早口になる欠点を克服する。 ・アイデアマンの能力を発揮する。
	MD	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の前でも、照れないでしっかり声を出す。 ・機転を利かして、のびのびとした活動をする。
	ME	<ul style="list-style-type: none"> ・語尾に気をつけた、わかりやすい発表をする。 ・司会をする時に、その場に応じた発表をする。



授業後の感想

子供の感想

- ・ 今日、ゲストティチャーでお母さんにきてもらいました。わたしは、おりん堂の事を発表しました。パンフレットに入れる事を説明しました。お母さんの話も聞きました。「川上の好きなところ」を聞きました。「川上ってそんなに安らぐところなんだなあ。」って思いました。わたしの一番好きなところは、とのみねです。
- ・ 私のお母さんは、仕事でこれなかったけれどお手紙を書ってくれた。お母さんは、九州の熊本からお嫁にきた。川上は、山のくらしで初めは慣れなくて大変だったけど、今は川上の四季の移り変わりが好きだ。村の人と学校が一緒になって楽しむことか出来る小学校の運動会も川上ならではのことと思います。川上が大好きと書いていた。お母さんの思っていることがわかった。なんだか、うれしかった。
- ・ 楽しい勉強だった。お母さんたちが、川上のことを良く知っているんだなあと思った。ぼくたちが知らないことを良く知っているなあとおもった。

お母さんからのお便り

先日は少し緊張もあって何を言ったらいいいのかとまらず、聞きづらかったのではないかと思います。家へ帰って冷静に考えてみますと、わたしの小学校の時は、月に一度、砥峰へ登るだけでなく川上の周辺の山登りがありました。1年生から6年生までいっしょです。子供たちが「一番好きなところは、砥峰です。」と答えていたのを聞いて、確かに砥峰は、ススキもきれいだし子供たちが一番自然を身近に感じる場所です。でも、そこしか行ったことがないんじゃないかなあ。「ナガソ」「センチョガミネ」「ダンガミネ」「タライシ」「ヒライシ」あとは名前もわからないのですが、鉾山の上のほうの山、色々と登りました。山の上からの眺めはすばらしいです。晴れた日は、日本海・瀬戸内海などが見えました。

私が子供たちに伝えたいことは、もっともっと川上の自然にふれてこれ以上自然を無くさないように川上のよき伝統とともに守ってほしいと思います。

子供たちが県庁で「川上ってどんなところですか？」の質問に答えられなかったように私も先生の最後の質問「子供たちに残してやりたい川上の良さは何ですか？」に答えられなかったのはとても恥ずかしいことだと思います。なぜなら35年と11ヶ月、川上に住んでいるのに毎日何も変化なく、過ごしているからだと思います。このたびの学習は、私自身も川上の村のことをどう思っているのか考えることができ良かったと思っています。

国語（総合学習）について

『「総合的な学習」は、主体的に生き抜いていくために学び取り方や考え方、感じ方、行い方など目標を明らかにして総合的な学びをめざす。「国語」は言葉によってものの見方を広げ、深める力をめざす。』と、とらえる。

「総合的な学習」の導入によりこれまで以上に人前で話す機会が増えている。これからの子ども達は、言語、とりわけ話し言葉によるコミュニケーションによって相互交流・相互理解を図る能力が求められてくる。話すことや聞くことなどの側面からコミュニケーション能力をとらえるときに「対話力（応答力）」「説明力（発表力）」「討議力」等の視点が考えられる。

今年度は、対話を重視した課題解決的な学習を進める。ふるさとを大切に思い、ふるさとのことを知り、自信を持ってふるさとを語れるように子供の意識を高めたいと願い本単元を設定した。ふるさとを取材する中で、自己との対話、仲間との対話、地域の人との対話を重ねていく事は、少人数の集団の中で過ごす子どもたちにとって大きな意味を持つと考えられる。子どもたちは、学ぶ対象に積極的に関わり、問いを見つけ出し、自分なりの意味を付与していく学習行為を推進していく。そして、そこには異質な考えを持つ仲間との活発な意見交流も必要となってくるであろう。少人数の学習集団だからこそ、意図的により多くの学習の場を設定し対話力、説明力、討議力を身につけさせたい。

指導に当たっては、子どもの主体性を重視するということ教師がひいてしまうというのではなく、教師も必要な場面で積極的に関わり、ほめたり、認めたり、時には、うち消したり、正したりしながら、子供とともに授業を構築していき、子どもも教師も主体性を発揮し、両者が能動的、相互作用的に授業に関わっていい授業を作り上げていくようにしたい。地域を教材にしていることで、子どもが興味を持って取り組み、ふるさとを理解し、ふるさとを今まで以上に大切に思う気持ちが育っている。川上の行事や、お年寄りに積極的にかかわり、ふるさとの良さを引き継いでいこうとする意欲を育てたい。

H・12 年間計画	5月	ふるさとを見て歩こう	自然
	6月	ふるさとの昔を知ろう	地域の人々
3・4年 国語（総合）	7月	地域の人にインタビュー	お年寄りを訪ねよう
	9月	調べたことをまとめる計画を立てよう	
	10月	}	川上のパンフレットを作ろう
	11月		
	12月		
	1月	学習発表会の計画を立てよう	
	2月	ふるさとの言い伝えを学習発表会で発表しよう	
3月	古い道具を探そう		

③ 5・6 学年算数科

「小数のわり算・分数のわり算」

授業を終えて

今回の授業は、今までの授業の原点に戻り、ガイド学習を中心とする授業づくりをした。そこで、4月からガイドの進め方をパターン化し、それに基づいて行った。そのため、授業自体は、スムーズに進んだ。しかし、スムーズすぎて、児童間の練り合わせの場がなく、単調な授業になったと思われる。

課題としては、

- ・個人差があり（特に5年生）ヒントカードなどを用意しているが、他の児童の待ち時間があり、授業の進め方が難しい。
- ・同時導入・同時結末をしていて、メリットがあるが、時間が足らなくなる授業もできてくる。
- ・授業者は、学年のわたりを意識しないで関わっているが、それでよいのか。
- ・児童同士の練り合わせをするにはどうすればよいのか。

と言うのがあげられる。

研究協議

ア、同時導入について

- ・今日の導入は、6年生には使えたが、5年生には無理があったのでは。5年生には、「昨日分かったことは、なんだったんだろう。」から始め、昨日10倍して整数にしたことをおさえさせてから、入るとスムーズに入れたんではないか。導入は、課題で生かしていけるものでなくてはいけない。
- ・同時導入・同時結末は、無駄じゃない。無理のない程度で進めたら良いと思われる。

イ、ガイド学習について

- ・6年生は、はっきりとガイドができていた。発表する子も、子ども同士に向かって発表していたのがよかった。
- ・文章問題で、分かっていることやたずねていることをはっきりさせる時、自分の言葉に直して、一つ一つていねいにおさえて、その後予想を立てさせるとよい。
(例) 読んですぐに解くんじゃなく、「どうしたら、とけるだろう。」と問いかける。
(例) また、ガイドが「どのように考えて計算すればいいか、発表してください。」とたずね、「昨日、こう計算したから、僕はこう計算していけばよいと思います。」と分かっている児童が発表する型をとると良い。また、図をかけない人がいたら、「私は、こうかこうと思います。」と分かっている児童が、ヒントを出す。最後に「質問はありませんか、一人でとけますか」と聞いて、解き始める。

ウ、個人差について

- ・問題を解く時、みんなの問題をつかみ、さぐる。そこでまず、予想を立てさせ、みんなの場で発表し合う時間をとる。そして、分からない子が、分かっている子に聞

く。分かっている子は、分からない子が納得できるように説明し、分かるまで説明する。お互い話し合いながら試行錯誤させる。そうすると、個人差が縮まっていく。個人差は、分かりにくい子を他の子でカバーしていくと縮まっていく。そのためにも、分からないことを自分で言える・一人一人が責任持って分からないことが言える学級の雰囲気を作らなければいけない。

・話し合い活動では、自分の考えが出せるように、つまってもいい、間違っている子を授業に生かしていくか、それをみんなの課題にしていくか、学習をおもしろくしていくかである。だから、子ども同士で話し合う時間と説明する時間を十分にとる必要がある。そのためには、表現力をつけさせなければいけない。

エ、表現力をつけさせるには

- ・説明の前には、「はじめに・次に・最後に」と順序立てた説明をさせる。
- ・いろいろな機会をとらえて場数をふませる。自信を持ってできるように低学年から練習をする。(恥をかかせないように、負担にならないように)

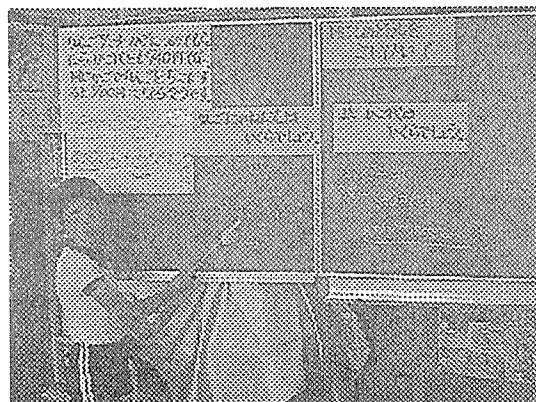
オ、わたりについて

- ・子どもが進める授業に、わたりはいらぬ。(講師：青田綾子先生)



6年 授業風景

5年 授業風景



「順々に調べて・変わり方を調べて」

授業を終えて

- ・今回の授業は、前回の反省で出た

文章問題では、自分の言葉に直して、ていねいにおさえる。

を中心に取り組んだ。

そのために、まずガイド学習の進め方の見直しをした。

- 1, 分かったいること、たずねていることに線を引いておさえる。
- 2, 問題の説明を自分の言葉でする。
- 3, 問題について分からないこと、質問はないか聞く。
- 4, 一人で解けるか確認する。解けない場合、予想を立ててみる。
- 5, 一人で考える。

2, 3, 4, を追加することで、問題について十分話し合う時間を確保した。

2, では、5年生に具体物を操作させたり、6年生に問題を板書させながら説明させたりして、個人差をうめることにもつなげた。

4, で6年生は、どのような表をかいたらいいか分かりにくいだろうと思い、表をかく前にどんな項目(特に代金の差)にしたらいいかをおさえて見通しを立てさせた。しかし、しっかり理解できなかったために表をかく段階で試行錯誤していた。4人中表がすぐにできたのは1人・数字を分けて考えたのが2人・式が時間内にできたのが1人だった。

5年生は、1～4まで時間をかけてやったせいか、スムーズに解けていた。しかも二つもきまりを見つけられたのが、4人中2人いた。

・もう一つ、前回の反省から出た

児童が分からなくなっても教師が入るのではなく、
子どもにかえし、子どもに考えさせ、子ども同士で解決させる。

という授業を実現させるため、ヒントカードを用意したり、間違いを大切にさせ、間違ったところを発表させたりして教師があまり出ないようにと心がけた。しかし、分かりにくい児童に関わりすぎてしまい、これが今後の課題である。

研究協議

- ・同時導入では、5, 6年生のどちらの学習にも生かせるキーワードをうまく使い、スムーズに入れた。また、同時結末では、お互いの学習内容を知ると言うことで5年生が6年生につながる学習内容を知り、6年生は5年の学習を振り返れるというメリットが生まれ良かった。
- ・ガイド学習では、文章問題での進め方を見直し、自分たちで話し合いが行われるようになり、練り合いが見られた。

6年生は、苦手になっている算数だけれど、よく話し合い自分たちなりに練っていた。子ども達が回数を重ねるごとに安心して取り組めるようになってきた。これも、ガイドの進め方の型にはめ、子どもに根気よく進めさせる。先生が根負けをして前に出て進めてはいけない。そのためにも、進め方の話し合いを子どもとしっかりとして、子どもが安心して進められるようカードなどを渡しておく必要がある。

5年生は、発表でまだ黒板を見ながら進めていたが、自信がないのと、子どもと黒板の位置が狭すぎるのにも問題があるのではないか。

・振り返りカードの「わかりにくい所」の欄は、理解しにくい児童にとって、気づきにくいので、「わかったこと」の欄を設けるのも良いのではないか。振り返りカードの、「感想」は、意欲・関心・態度が分かり、「わかったこと」は、到達度が図られる。「わかりにくい所」では、自分のすべき学習が見つかる。この自己評価によって、自学自習の力がさらに付いてくると思われる。

(振り返りカード)

今日の振り返りカードへ

10月2日(藤原 聖)

人数を求めるには、
きとすればよいが。

今日の感想は
◎◎△

感想

わかりにくい所

表にかいてみる
あかりの法
きとすればよいが。

式をかくの
あかりの法
左。あかりの法

(個人カルテ表)

・個人カルテは、教科によって工夫していけばよいので、今回のカルテは、算数ではよく分かるものだった。特に自己評価だけでは把握できないところを、教師が気づいたところを書くことによって、次の学習で生かされるのが良かった。

6年 10月5日(木)

わかる人数を求めよう

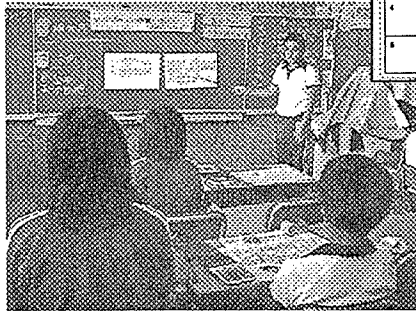
個人カルテ表

日	時間	ノート	気づいたこと
1	T↑	◎	表にかいてみる あかりの法 きとすればよいが。
2	T↑	○	あかりの法 きとすればよいが。
3			
4	休		
5	T↑	○	あかりの法 きとすればよいが。
6	T↑	○	あかりの法 きとすればよいが。

個人カルテ表

10月5日(木)

日	時間	ノート	気づいたこと
1	休		
2	T↑	◎	あかりの法 きとすればよいが。
3	T↑	◎	あかりの法 きとすればよいが。
4	T↑	○	あかりの法 きとすればよいが。
5	T↑	◎	あかりの法 きとすればよいが。



【児童感想】

6年

表をかいてみるときまりがわかった。そして、あわせた個数を半分にすると表に書くと答えがすぐに出た。

5年

「人数は何人」とかを出すときは、表にかいて表すと、とても簡単だった。きまりを見つけていくのがおもしろかった。

成果と今後の課題

類似単元の同時導入・同時結末を取り入れることにより、学級内で課題意識が向上し、関心意欲が高まりやすい。また、下学年の児童にとっては学習内容についての発展的な見通しを持つことができるし、上学年の児童にとっては既習事項と現在学習している内容との関連が明らかになり、理解を助ける。そして、両学年に共通する学習課題を設定することにより、各学年が互いに関わり合って学習を進めることができ複式のメリットを生かすことができる。しかし、時間配分をよく考えないと、各学年の考える時間が確保されない場合が出てくるので気をつけたい。

新学習指導要領で算数における作業的・体験的活動の学習の充実を図る必要があることが示されている。複式学級において、活動場所がちがう学習に対してどのように対応するかが今後の課題となる。

第5・6学年 算数科学習指導案

指導者 田尻 善昭

1. 単元

{5年} 小数のわり算（小数とその計算）

2. 目標

- 小数の除法の意味や計算の仕方を既習の内容に関連づけて、自ら見いだそうとする。
(算数への関心・意欲・態度)
(数学的な考え方)
- 小数の除法の意味やきまりが分かり、それらが用いられる場面を理解することができる。
(数量や図形についての知識・理解)
- 小数の除法の計算の仕方を理解し、その計算が確実にできる。
(数量や図形についての表現・処理)
(数量や図形についての知識・理解)

3. 学習の観点

除法については、整数でわることの意味や被除数が整数の場合も含めて、今までに学習を済ませている。この単元は、 \div 小数の場面にまで除数の意味を拡張し、除法の世界を広げていき、小数の除法の意味や計算のきまりが分かることをねらいとしている。

児童は、すでに前単元の小数のかけ算で乗法の適用する数範囲を小数まで拡張する経験を積んでいる。したがって、除法の適用する数範囲を拡張するということの抵抗は少ないと思われる。しかし、小数の除法は、小数の乗法以上に立式段階で理解しにくい。また、個人の理解度の差が著しいので、進度が難しくなる。

そこで、児童が納得しやすい具体的事象で展開をはかっていき、かけ算と同じように、ことばの式を手がかりにして立式させる。その後で、絵や線分図を用いて、整数と小数の関連を図りながら、小数でわることの意味をとらえさせたい。また、ガイド学習を取り入れ、自らの課題を解決していく態度を育て、主体的な学習を進めるように支援していく。

4. 学習計画（全12時間）

第1次	小数でわる計算	9時間
第1時	小数でわることの意味と整数 \div 小数の計算の仕方	
第2時	単位量を求めるわり算の小数 \div 小数の立式とその計算の仕方（本時）	
第3時	小数でわることの意味と小数 \div 小数の立式とその計算の仕方	
第4・5時	筆算の仕方	
第6時	商と余り、除数と被除数の間の関係	
第7時	乗数と積の大小関係、除数と商の大小関係	
第8時	小数の乗除の計算のきまりと、きまりを使った計算の工夫	
第9時	小数のわり算の適用問題	
第2次	どんな計算になるのかな	1時間
第3次	算数のまど	1時間
第4次	復習	1時間

5. 本時の目標

包含除の場合について、わり算が用いられることを理解する。

6. 準備

ホワイトボード・ヒントを隠す付箋紙

1. 単元
〔6年〕 分数のわり算

2. 目標

- 分数の除法が使われる場面を知り、問題の解決に当たって分数のわり算を積極的に使おうとする態度や使うことのよさが分かる。
(算数への関心・意欲・態度)
- 小数÷小数や分数の除法の学習をもとに、分数÷分数の立式や計算の仕方を考えたり、説明したりするとともに除法についてまとめることができる。
(数学的な考え方)
- 分数のわり算の計算ができ、適用をはかることができる。
(数量や図形についての表現・処理)
- 分数の意味が分かり、計算の仕方が分かる。
(数量や図形についての知識・理解)

3. 学習の観点

本単元は、分数のかけ算の単元と同様に、小数÷小数を手掛かりとして、ことばの式を根拠に分数÷分数の立式や計算のしかたを考える展開となっている。後半は、逆数の導入により、除法を乗法に統合していくとともに、割合への応用も含めた発展的な扱いになっている。

これまでに児童は、除数・被除数が整数や小数になった場合のわり算や、さらに、乗数・被乗数が分数になった場合のかけ算の立式と、その計算の仕方を既に学習している。前単元の「分数のかけ算」では、計算の仕方を理解し、正確に解けるようになった。分数のわり算を考える場合、形式的な計算は難しいものではないが、意味の理解や計算方法を導き出す過程は、生活面での経験がないため、児童の抵抗は大きい。

そこで、ことばの式を手がかりに、立式の意味をとらえさせたくて、面積図を使ったり、線分図を活用して視覚的に計算の仕方をはっきりととらえるようにする。また、児童の計算課程を大事にしながら、整数・小数・分数の混ざった乗除計算では、小数を分数に直し、除法を乗法に直すことによって、すべて乗法の形で表すことができる便利さを体得させていく。また、ガイド学習を取り入れ、分かりにくいところは、ヒントカードなどを用い、主体的な学習を進めるように支援していく。

4. 学習計画 (全12時間)

第1次	分数でわる計算	-----	7時間
第2次	どんな計算になるのかな	-----	1時間
第3次	割合を使って	割合の第2用法の問題 -----	1時間
		割合の第3用法の問題 -----	1時間 (本時分)
第4次	算数のまど	-----	1時間
第5次	複習時間	-----	1時間

5. 本時の目標

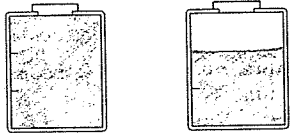
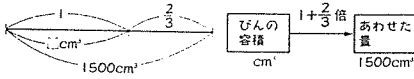
割合の第3用法の問題 $(x \div (1 \pm b/a) = c)$ を解くことができる。

6. 準備

ホワイトボード・ヒントを隠す付箋紙・ヒントカード

7. 展開
〔5年〕

〔6年〕

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> どんな場面でわり算を使うか考えさせる。 挿し絵を見て、題意をつかませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> ビンの本数を考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の式をもとに考えさせ、1本の量が小数でもわり算の式で表示できることを線分図で確認させる。 線分図をかくことによって、計算の意味を理解させる。 除数が小数のわり算は、除数・被除数に同じ数をかけ、除数を整数にして計算すればよいことを振り返らせる。 除数が小数第2位の小数では、除数を整数に変えるという、これまでの方法にもとづいて計算してもよいことに気づかせる。 除数を整数にするには、100をかけたらいよいよことに気づかせる。 除数が小数第2位のわり算の計算について理解を深めさせる。 ことばの式や線分図から式を考えさせ、小数でわる等分除の意味理解を深化させる。 S児・M児が困っていたら、ヒントを与えながら支援していく。 分かったこと、大事なことを自分の言葉でまとめさせる。 まとめたのをクラス全体の場で発表させ、自己評価する。 	<ol style="list-style-type: none"> わり算について話し合う。 全体の量 ÷ 1本分の量 = 本数 代金 ÷ 長さ = 1メートルの値段 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> ビンの容積を考えよう。 </div> <ol style="list-style-type: none"> 考察する。 <ul style="list-style-type: none"> 何本とれるかを求める式を考える。 $\text{全体の量} \div \text{1本分の量} = \text{本数}$ <ul style="list-style-type: none"> 1. $8 \div 0.12$ の計算の仕方を考える。 1. $8 \div 0.12$ の計算をして、答えを求める。 $= (1.8 \times 100) \div (0.12 \times 100)$ $= 180 \div 12$ $= 15$ <ul style="list-style-type: none"> ⑨の問題をする。 練習問題をする。 <ul style="list-style-type: none"> 3. 6mのゴムひもから0.45mのゴム輪が何本できるか求める。 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> 今日学習したことをみんなの前で、発表する。 	<p>か 課題をつかむ</p> <p>わ 話題をひろげる</p> <p>か 考えを深める</p> <p>み みんなでまとめる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 課題をつかむ 考察する <ul style="list-style-type: none"> 両方のジュースをあわせた量が、ビン1本分の何倍に当たるかを、情景図・線分図・関係図などで考える。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> 図から立式し、答えを求める。 <div style="text-align: center;">  </div> $1500 \div (1 + 2/3) = 900 \quad 900 \text{cc}$ 練習問題をする。 <ul style="list-style-type: none"> 買ってきたリボンの長さを求める。 $4.5 \div (1 - 2/5) = 7.5 \quad 7.5 \text{m}$ 	<ul style="list-style-type: none"> 割合の時にもわり算を使ったことを、振り返らせる。 問題を読ませ、「何を求める問題なのか」をつかませる。 情景図や線分図や関係図を書かせ、両方のジュースをあわせた量は、ビン1本分の何倍に当たるかを考えさせる。 図から両方のジュースをあわせた量は、ビン1本分の $1 + 2/3$ 倍であることに気づかせる。 ビンの容積を求めさせるために、自由に式をつくらせて、児童の考えた式を認めて、意欲を持たせる。 1本分を求める式を考えさせる。 なかなか式の児童には、ヒントカードで「もとにする量」が分かっていないことを支援していく。 除法によって1あたり量が求められることを確かめる。 問題を読ませ、残っているリボンの長さは、買ってきたリボンの何倍かを考えさせてから、問題を解かせる。 線分図を書き、量の関係を考察してから、各自で解決する事を促す。 分かったこと、大事なことを自分の言葉でまとめさせる。 まとめたのをクラス全体の場で発表させ、自己評価する。

第5・6学年 算数科学習指導案

指導者 田尻 善昭

1. 単元
〔5年〕 順々に調べて
2. 目標
○「数少ない場合から順々に調べる」思考法のよさが分かり、これを活用して問題を解くことができる。
(算数への関心・意欲・態度)
(数学的な考え方)
○起こる場合を順々に調べて、条件に適合する場合を見つけて問題を解くことができる。
(数量や図形についての表現・処理)
3. 学習の観点
本単元は、変化のようすを帰納的に考えて問題を解決する活動を通して、数量の関係を整理し、その中から規則性を見いだして問題を解く思考法を育てていることをねらいとしている。これは、4年生での「変わり方」の学習を一步進めたものであり、6年生の「変わり方を調べて」「場合を順序よく整理して」につながるものである。
児童は、4学年「変わり方」で変化のようすを表にかいて、きまりを見いだす学習をしてきている。事前テストでは、全員の児童が表にあらわすことができた。しかし表からきまりを見つけ、問題を解決することができた児童は、2名だけだった。そのため、本単元でも、数少ない場合を調べて数の多い場合を推測していくため数名の児童にとって規則性をとらえるのは、難しいと思われる。
そこで、4学年の「変わり方」で学習したことを想起させ、まず折り紙を折るなどの操作活動をさせ、理解を助ける。そしてその活動を通して、操作の限界に直面させ、変化のようすを調べるには、表を使えば分かりやすかったことに気づかせる。その後、表を縦に見たり横に見たりして数の変化に見られる規則性に気づかせたい。さらに、進んで表を活用しようとする態度を育てたり、表に整理するよさを実感させたい。また、ガイド学習を取り入れ、自らの課題を解決していく態度を育て、主体的な学習を進めるように支援していく。
4. 学習計画（全2時間）
第1時 数少ない場合から数量の間の規則性をみつけ、数少ない場合を類推する問題
第2時 「数少ない場合から順々に調べ、きまりをみつけて考える」思考法を応用する問題 -----（本時）
5. 本時の目標
数少ない場合を表を使って調べていく中で、数量の間の規則性をとらえ、数の多い場合を類推して問題解決ができるとともに表に整理するよさを実感することができる。
6. 準備
ワークシート・ヒントカード・ホワイトボード

1. 単 元
〔6年〕

変わり方を調べて

2. 目 標

- 数量の関係を考察するにあたって、表を積極的に使おうとする態度がみられ、表を使うことのよさが分かる。
(算数への関心・意欲・態度)
- 表から規則性をみつけたり、手際よく順序を考えたりすることができる。
(数学的な考え方)
- 2つの数量の関係を表や式に表すことができる。
(数量や図形についての表現・処理)

3. 学習の観点

本単元は、2つの数量を変化させて、その和や差などの変わり方を「表」に表すことによって、きまりをみつけたり、変わり方から見当をつけたりして問題を解くことができる思考力を養うのがねらいである。試行錯誤しながら表にかくという有効な方法に気づき見当づけたり仮定したりしながら、数量の関係を見抜いて解いていくという考え方は、子ども達の将来に幅広く役に立つ考え方である。

数量の変化を表にかいてきまりをみつけ問題を解決することについて児童は、第4学年から学習してきた。したがって、表にかいて調べることについては、抵抗がないものと思われる。しかし、どんな表にかけばよいのか、表の項目は何にすればよいのかと言うことでとまどう児童が出てくると予想される。しかしながら、表を変化させながら思考を深めていくという算数的活動は興味を持って取り組めるとと思われる。

そこで、問題の題意を把握しやすいように、日常の生活と照らし合わせたり、イメージしやすいように具体物を用意したりする。表をかくときには、個人差に応じられるようにヒントカードを用意したり個別に支援する。表は手段であって、目的ではないことに十分注意していきたい。また、ガイド学習を取り入れ、主体的な学習を進めるように支援していく。

4. 学習計画 (全3時間)

- 第1時 2つの数量を順に変化させ、その差の変わり方のきまりをみつけて解く問題
- 第2時 2つの数量を順に変化させ、その和の変わり方のきまりをみつけて解く問題
- 第3時 2つの数量を適当なところから変化させ、その差の変わり方のきまりをみつけて解く問題 ----- (本時)

5. 本時の目標

2つの数量を適当なところから変化させ、その差の変わり方のきまりをみつけて問題を解くことができる。

6. 準 備

ワークシート・ヒントカード・ホワイトボード

7. 展開
〔5年〕

〔6年〕

教師の支援と配慮事項	児童の活動	学習過程	児童の活動	教師の支援と配慮事項																																																																														
<ul style="list-style-type: none"> 前時までのキーワード「変わり方を見つけて」について振り返らせる。 	<p>1. 前時について話し合い、本時の題意をつかむ。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 前時までのキーワード「表にかいて」「変わり方を見つけて」について振り返らせる。 																																																																														
<p>変化の様子を表に表して、5だんの時のひごの数を求めよう。</p>		<p>か、課題をつかむ</p>	<p>かきとみかんの個数をどのように求めたらよいだろう。</p>																																																																															
<ul style="list-style-type: none"> たずねていることの意味が分かるか、問題について質問はないかガイド役に確認させる。 同じ長さのひごを児童に配布し、操作活動を通して問題をつかませる。 ◎題意をつかみ、解決の見通しがもてたか。(関) 段数が多くなるとひごを並べて調べるのは大変であることから、表に整理して変化のきまりを見つければよいことに気づかせたい。 変化のきまりが見つけにくい児童には、4段目についても、鉛筆で線を引いて調べてもよいことを助言する。 表は、何度も書き直しがきくホワイトボードに書き込み、後で発表の時に用いる。 変化のきまりが見つけだせない児童には、ヒントカードを用意し、1段目と2段目のひごの差、2段目と3段目のひごの差に着目させて、きまりに気づくよう支援する。 ◎自分なりの表がかいて求められたか。(考) それぞれのきまりについて、表にかき入れた数と数とを視覚的にもとらえやすいように、ホワイトボードに分かったことは何でも書くように促す。 友達に分かるように。自信を持って話せるよう励ます。 分かったこと、大事なことを自分の言葉でまとめさせ、クラス全体の場で発表し、自己評価とする。 ◎数量間の規則性をみつけて問題解決ができる。(考) 	<ul style="list-style-type: none"> 分かっていること ひごで5段をつくっていく たずねていること ひごが何本必要か ひごを操作する。 2. 考察する。 解き方の予想を立てる 自分で解く 段数とひごの数を調べ表に整理していく。 <table border="1" data-bbox="954 956 1267 1015"> <tr><td>だんの数</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>ひごの数</td><td>4</td><td>10</td><td>18</td><td>28</td><td>40</td></tr> </table> <p>表をもとにして、段数が増えるごとにひごの数がどのように増えていくか考える。</p> <table border="1" data-bbox="954 1172 1267 1309"> <tr><td>だんの数</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>ひごの数</td><td>4</td><td>10</td><td>18</td><td>28</td><td>40</td></tr> </table> <p>↑ 6 8 10 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. 考えを発表する。 段数が増えるにつれてひごの数が6, 8, 10と増える。 段数に対してひごの数が4, 5, 6倍となっている。 5だんの階段には40本のひごがいる。 70本のひごがあると、何段の階段が作れるか考える。 4. 学習のまとめをする。 今日学習して分かったこと、気づいたことをまとめ、みんなの前で発表する。 	だんの数	1	2	3	4	5	ひごの数	4	10	18	28	40	だんの数	1	2	3	4	5	ひごの数	4	10	18	28	40	<p>か、課題をつかむ</p> <p>お、話題を広げる</p> <p>か、考えを深める</p> <p>み、みんなをまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分かっていること かき70円 みかん30円 あわせて30個買う かき代900円多い たずねていること それぞれ何個買った 2. 考察する。 解き方の予想を立てる 自分で解く かきとみかんの数を表に整理していく。 <table border="1" data-bbox="1586 976 1887 1062"> <tr><td>かき</td><td>30</td><td>29</td><td>28</td><td></td><td>18</td></tr> <tr><td>みかん</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td></td><td>12</td></tr> <tr><td>代金の差</td><td>2100</td><td>2000</td><td>1900</td><td></td><td>900</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="1586 1093 1887 1179"> <tr><td>かき</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td></td><td>18</td></tr> <tr><td>みかん</td><td>20</td><td>19</td><td>18</td><td></td><td>12</td></tr> <tr><td>代金の差</td><td>100</td><td>200</td><td>300</td><td></td><td>900</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="1586 1211 1887 1297"> <tr><td>かき</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td></td><td>18</td></tr> <tr><td>みかん</td><td>15</td><td>14</td><td>13</td><td></td><td>12</td></tr> <tr><td>代金の差</td><td>600</td><td>700</td><td>800</td><td></td><td>900</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 3. 考えを発表する。 $2100 - 900 = 1200$ $1200 \div 100 = 12$ $0 + 12 = 12$ $30 - 12 = 18$ $900 - 600 = 300$ $300 \div 100 = 3$ $15 + 3 = 18$ $15 - 3 = 12$ かき18個 みかん12個 4. 学習のまとめをする。 	かき	30	29	28		18	みかん	0	1	2		12	代金の差	2100	2000	1900		900	かき	10	11	12		18	みかん	20	19	18		12	代金の差	100	200	300		900	かき	15	16	17		18	みかん	15	14	13		12	代金の差	600	700	800		900	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を使って題意を解説させ、問題理解を助ける。 たずねていることの意味が分かるか、問題について質問はないかガイド役に確認させる。 ◎題意をつかみ、解決の見通しがもてたか。(関) ホワイトボードに、自分のかきやすい表をかいて考える。友達に説明しやすくかくように促す。 何個から変化させるか、各自表にしながらかき代を減らして見つけるように励ます。 みかん30個から始めると、かき代の方が少なくなるから、かき30個から始める方がいいことに気づかせていく。 わかりにくい児童には、15と15で始めていくとよいことをヒントカードを用意し支援していく。 早く表がかけて解答が求められて児童には、表からきまりを見つけようとするように促す。 ◎自分なりの表がかいて求められたか。(考) 友達に分かるように自信を持って話せるよう励ます。 自分の考えとの違いや友達のよいところに気をつけて聞くよう促す。 よりよい方法として、早く正確にできそうな方法はどれかで、考えを深めていく。 適当なところに見当をつけることの大切さに触れ、ワークシートにまとめさせて自己評価とする。 ◎適当なところから変化させる表をかいて解くことよき気づいたか。(考・表)
だんの数	1	2	3	4	5																																																																													
ひごの数	4	10	18	28	40																																																																													
だんの数	1	2	3	4	5																																																																													
ひごの数	4	10	18	28	40																																																																													
かき	30	29	28		18																																																																													
みかん	0	1	2		12																																																																													
代金の差	2100	2000	1900		900																																																																													
かき	10	11	12		18																																																																													
みかん	20	19	18		12																																																																													
代金の差	100	200	300		900																																																																													
かき	15	16	17		18																																																																													
みかん	15	14	13		12																																																																													
代金の差	600	700	800		900																																																																													

(2) カリキュラム

第1・2 (国語科) 第1学期 部分単式A
 (1) 年 (2) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (27)	いきたいね うたにあわせて あいうえお	いきたいね うたにあわせて あいうえお	4 (27)	本をひらこう	ふきのとう 今週のニュース 音の数
5 (26)	げんきにあいさつ ぶらんこ はなのみち	げんきにあいさつ ぶらんこ はなのみち	5 (26)	<small>じゅんじゅんに気をつけて読もう</small>	たからものをさがそう くまさん たんぼぼのちえ 同じ部分をもつ漢字
6 (35)	おはなしきいて すきなものおしえて かえるのかくれんぼ とりとなかよし	おはなしきいて すきなものおしえて かえるのかくれんぼ とりとなかよし	6 (35)	<small>じゅんじゅんに思い出して書こう</small> ようすや気持ちを 考えながら読もう	たのしかったこと スイミー 漢字の読み方
7 (24)	本は友だち ともだち	くまの子ウーフ かわいそうなぞう	7 (24)	本は友だち ともだち	くまの子ウーフ かわいそうなぞう

第1・2 (国語科) 第1学期 部分単式B
 (1) 年 (2) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (27)	いきたいね うたにあわせて あいうえお	いきたいね うたにあわせて あいうえお	4 (27)	本をひらこう	ふきのとう 今週のニュース 音の数
5 (26)	げんきにあいさつ ぶらんこ はなのみち	げんきにあいさつ ぶらんこ はなのみち	5 (26)	<small>じゅんじゅんに気をつけて読もう</small>	たからものをさがそう くまさん たんぼぼのちえ 同じ部分をもつ漢字
6 (35)	おはなしきいて すきなものおしえて かえるのかくれんぼ とりとなかよし	おはなしきいて すきなものおしえて かえるのかくれんぼ とりとなかよし	6 (35)	<small>じゅんじゅんに 思い出して書こう</small> ようすや気持ちを 考えながら読もう	たのしかったこと スイミー 漢字の読み方
7 (24)	おむすびころりん たのしみです はながさいたよ ともだち	おむすびころりん かわいそうなぞう	7 (24)	おむすびころりん たのしみです はながさいたよ ともだち	おむすびころりん かわいそうなぞう

第1・2 (国語科) 第2学期 部分単式A
 (1) 年 (2) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (26)	大きなかぶ かいてくらべよう	大きなかぶ えとかんじ かずとすうじ かいてくらべよう	9 (26)	みんなに教えて あげたいな	大きくなあれ こんなことあったよ とびばことび 丸、点、かぎ
10 (38)	気持ちを考えて じどう車くらべ	お手紙 じどう車くらべ かたかな 日づけとよう日 おとあてゲーム	10 (38)	気持ちを考えて たしかめながら読もう	お手紙 じゃんけん ことばであそぶ
11 (31)	ことばっておもしろいな どんなこと、かこうかな	ほんたいのことば わたしがつくった カレンダー ふうせんはどうなるのかな	11 (31)	ことばっておもしろいな	ほんたいのことば 漢字ビンゴゲーム かたかなで書くことば
12 (21)	ようすや気持ちを 思いうかべて読もう 絵本をつくろう	スーホの白い馬 こんなお話を考えた	12 (21)	ようすや気持ちを 思いうかべて読もう 絵本をつくろう	スーホの白い馬 こんなお話を考えた

第1・2 (国語科) 第2学期 部分単式B
 (1) 年 (2) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (26)	大きなかぶ かいてくらべよう	大きなかぶ えとかんじ かずとすうじ かいてくらべよう	9 (26)	みんなに教えて あげたいな	大きくなあれ こんなことあったよ とびばことび 丸、点、かぎ
10 (38)	こえにだしてよもう じどう車くらべ	くじらぐも じどう車くらべ かたかな 日づけとよう日 おとあてゲーム	10 (38)	こえにだしてよもう たしかめながら読もう	くじらぐも じゃんけん ことばであそぶ
11 31	ことばっておもしろいな どんなこと、かこうかな	ものの名まえ わたしがつくった カレンダー ふうせんはどうなるのかな	11 (31)	ことばっておもしろいな	ものの名まえ 漢字ビンゴゲーム かたかなで書くことば
12 (21)	本はともだち 絵本をつくろう	ずうっとずっと、 大すきだよ こんなお話を考えた	12 (21)	本はともだち 絵本をつくろう	ずうっとずっと、 大すきだよ こんなお話を考えた

第1・2 (国語科) 第3学期 部分単式A
 (1) 年 (2) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (30)	だいじなところに 気をつけて読もう	おへそって、なあに かたかな わたしのたからもの	1 (30)	だいじなところに 気をつけて読もう	おへそって、なあに こんなときどういうの
2 (37)	おもい出してかこう	アルバムをつくろう かん字ずかん	2 (37)	家の人に知らせるつもりで	できるようになったこと なかまの漢字
3 (20)	お話を楽しもう 紙人形げきをしよう	力太郎 紙人形げきをしよう あるけあるけ	3 (20)	お話を楽しもう 紙人形げきをしよう	力太郎 紙人形げきをしよう てんとうむし

第1・2 (国語科) 第3学期 部分単式B
 (1) 年 (2) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (30)	だいじなところに 気をつけて読もう	おへそって、なあに かたかな わたしのたからもの	1 (30)	だいじなところに 気をつけて読もう	おへそって、なあに こんなときどういうの
2 (37)	おもい出してかこう	アルバムをつくろう かん字ずかん	2 (37)	家の人に知らせる つもりで	できるようになったこと なかまの漢字
3 (20)	おはなしをよもう にんぎょうをうごかそう	たぬきの糸車 あるけあるけ	3 (20)	おはなしをよもう にんぎょうをうごかそう	たぬきの糸車 てんとうむし

第3・4 (国語科)

第1学期

部分単式A

(3) 年

(4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (19)	本と出会う 友達と出会う	森に生きる ことばから文へ 友子さんはどこかな 主語と述語	4 (19)	本と出会う 友達と出会う	森に生きる ことばから文へ 友子さんはどこかな こそあど言葉
5 (28)	詩を読もう 書きたいことの 中心をくわしく	わたしと小鳥とすずと 電話で約束 ヤモリをつかまえた 漢字の音と訓	5 (28)	詩を読もう メモを生かして	春のうた 電話で約束 せいそう工場の見学 国語辞典の使い方
6 (32)	まとまりを考えて 気持ちの うつりかわりを	ヤドカリのすみかえ ありの行列 つり橋わたれ くわしくする言葉	6 (32)	段落のつながりに 気をつけて 様子に気をつけて	カブトガニを守る キョウリユウをさぐる 白いぼうし 漢字の組み合わせと意味
7 (17)	本は友だち	吉四六話 本のおびを作る わたしのすすめる この一さつ	7 (17)	本は友だち	吉四六話 本のおびを作る わたしのすすめる この一さつ

第3・4 (国語科)

第1学期

部分単式B

(3) 年

(4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (19)	本と出会う 友達と出会う	ガオーツ 場面の様子から ことばから文へ 友子さんはどこかな 主語と述語	4 (19)	本と出会う 友達と出会う	ガオーツ 場面の様子から ことばから文へ 友子さんはどこかな こそあど言葉
5 (28)	詩を読もう 書きたいことの 中心をくわしく	わたしと小鳥とすずと 電話で約束 ヤモリをつかまえた 漢字の音と訓	5 (28)	詩を読もう メモを生かして	春のうた 電話で約束 せいそう工場の見学 国語辞典の使い方
6 (32)	まとまりを考えて 気持ちの うつりかわりを	ヤドカリのすみかえ ありの行列 つり橋わたれ くわしくする言葉	6 (32)	段落のつながりに 気をつけて 様子に気をつけて	カブトガニを守る キョウリユウをさぐる 白いぼうし 漢字の組み合わせと 意味
7 (17)	本は友だち	エルマーとらに会う 本のおびを作る わたしのすすめる この一さつ	7 (17)	本は友だち	エルマーとらに会う 本のおびを作る わたしのすすめる この一さつ

第3・4 (国語科) 第2学期 部分単式A
 (3) 年 (4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (21)	詩を読もう 言葉っておもしろいな	泣くぞ わたしのニュース いろいろな意味を持つ言葉 グループ新聞づくり	9 (21)	詩を読もう 言葉っておもしろいな	夕立 ニュースの時間です いろいろな意味を持つ言葉 グループ新聞づくり
10 (31)	みんなで考えよう おもしろいと思ったところは	虫のゆりかご しぜんのふしぎ 同じ読み方をする漢字 三年とうげ	10 (31)	みんなで考えよう 場面をくらべて	手と心で読む 伝え合う心 漢字の組み立て ローマ字 一つの花
11 (31)	書きたいことを整理して わたしたちの川上	いろいろな符号 「けが」のグラフから 漢字辞典の使い方 川上パンフレットを作ろう	11 (31)	書きたいことを整理して わたしたちの川上	いろいろな符号 「けが」のグラフから 漢字辞典の使い方 川上パンフレットを作ろう
12 (20)	〈読書〉 人々のつながりを	雪の中のつな引き 詩の広場	12 (20)	〈読書〉 人々のつながりを	雪の中のつな引き 詩の広場

第3・4 (国語科) 第2学期 部分単式B
 (3) 年 (4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (21)	言葉っておもしろいな 作品のおもしろさを	文を組み立てる グループ新聞づくり アナトール、工場へ行く	9 (21)	言葉っておもしろいな 作品のおもしろさを	文を組み立てる グループ新聞づくり アナトール、工場へ行く
10 (31)	みんなで考えよう おもしろいと思ったところは	虫のゆりかご しぜんのふしぎ 同じ読み方をする漢字 三年とうげ	10 (31)	みんなで考えよう 場面をくらべて	手と心で読む 伝え合う心 漢字の組み立て ローマ字 一つの花
11 (31)	書きたいことを分かりやすく	へんとつくり 説明書を作ろう 言葉のつながり	11 (31)	書きたいことを分かりやすく	へんとつくり 説明書を作ろう 言葉のつながり
12 (20)	〈読書〉 世界に目を向けて	1本の鉛筆の向こうに 詩の広場	12 (20)	〈読書〉 世界に目を向けて	1本の鉛筆の向こうに 詩の広場

第3・4 (国語科) 第3学期
(3) 年

第3学期

部分単式A

(4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (20)	場面の様子に気をつけて	ちいちゃんのかげおくり こんな題名がいいなあ	1 (20)	人物の気持ちの動きを	ごんぎつね 学級しようかい
2 (30)	たしかめながら 想像をふくらませて	あなたはだれ 送りがな たから物をさがしに 漢字の広場	2 (30)	文章の組み立てに気をつけて 見る目を変えて	体を守る仕組み 送りがな 四年一組物語 まちがえやすい漢字
3 (26)	物語を楽しもう わたしたちの川上を発表しよう	モチモチの木 「お話の会」をしよう 「りん りりん」	3 (26)	物語を楽しもう わたしたちの川上を発表しよう	モチモチの木 「お話の会」をしよう 「りん りりん」 ローマ字

第3・4 (国語科) 第3学期
(3) 年

第3学期

部分単式B

(4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (20)	場面の様子に気をつけて	ちいちゃんのかげおくり こんな題名がいいなあ	1 (20)	人物の気持ちの動きを	ごんぎつね 学級しようかい
2 (30)	たしかめながら 想像をふくらませて	あなたはだれ 方言と共通語 たから物をさがしに 漢字の広場	2 (30)	文章の組み立てに気をつけて 見る目を変えて	方言と共通語 四年一組物語 まちがえやすい漢字
3 (26)	作品を楽しもう	あらしの夜に 演じてみよう 誰かが星をみていた	3 (26)	作品を楽しもう	あらしの夜に 演じてみよう 誰かが星をみていた ローマ字

第5・6 (国語科) 第1学期 部分単式A

(5) 年			(6) 年		
月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (16)	本に親しみ、新しい世界と出会う	ヤドカリ探検隊 記録に残そう 意見発表会から	4 (16)	本に親しみ、新しい世界と出会う	南に帰る 十二歳の記録を残そう 養護先生の話から
5 (22)	本に親しみ、新しい世界と出会う 要旨をとらえて	われは草なり 海雀 地図が見せる世界 大陸は動く つなぎ言葉	5 (22)	詩の世界を広げよう 筆者の考えをとらえて	われは草なり 海雀 ガラバゴスの自然と生物 人類はほろびるか 送り仮名
6 (22)	生活を見つめ直して 表現を味わいながら	こんな道があったら 仮名づかいの決まり 麦畑 漢字の成り立ち	6 (22)	資料を整理して 主題を考えて	オリンピックの開さい地を調べて 漢字の形と音・意味 石うすの歌
7 (14)	<読書>本は友達	おみやげ 宇宙人の宿題 わたしの読書記録	7 (14)	<読書>本は友達	おみやげ 宇宙人の宿題 わたしの読書記録

第5・6 (国語科) 第1学期 部分単式B

(5) 年			(6) 年		
月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (16)	本に親しみ、新しい世界と出会う	ヤドカリ探検隊 記録に残そう 意見発表会から	4 (16)	本に親しみ、新しい世界を求める	南に帰る 十二歳の記録を残そう 養護先生の話から
5 (22)	短歌・俳句を読もう 要旨をとらえて	短歌と俳句 地図が見せる世界 大陸は動く つなぎ言葉	5 (22)	短歌・俳句を読もう 筆者の考えをとらえて	短歌と俳句 ガラバゴスの自然と生物 人類はほろびるか 送り仮名
6 (22)	生活を見つめ直して 表現を味わいながら	こんな道があったら 仮名づかいの決まり 麦畑 漢字の成り立ち	6 (22)	資料を整理して 主題を考えて	オリンピックの開さい地を調べて 漢字の形と音・意味 石うすの歌
7 (14)	<読書>本に親しむ	附子	7 (14)	<読書>本に親しむ	附子

第5・6 (国語科) 第2学期 部分単式A
 (5) 年 (6) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (22)		あなたへ 新聞をもとに 同じ音の漢字	9 (22)		あいたくて 班を代表して
	みんなで考えよう	一秒が一年をこわす 身近な環境		みんなで考えよう	一秒が一年をこわす 身近な環境
10 (22)		漢語と和語 「私たちの意見」集	10 (22)		熟語の成り立ち さまざまな表現に 目を向けて
	情景を思いうかべて	大造じいさんとガン		豊かに想像して	やまなし 仮名の由来
11 (22)	調査したことを	敬語 みんなの読書週間 熟語を使って	11 (22)	十二歳の記録	今、わたしは、 わたしたちは、 言葉の使い分け 同じ訓をもつ漢字
12 (16)	<読書>伝え合う喜び	「その人」と出会う 詩の広場	12 (16)	<読書>伝え合う喜び	「その人」と出会う 詩の広場

第5・6 (国語科) 第2学期 部分単式B
 (5) 年 (6) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (22)		あなたへ 新聞をもとに 同じ音の漢字	9 (22)		あいたくて 班を代表して
	みんなで考えよう	覚えること、伝えること、分ること 記憶とコミュニケーション		みんなで考えよう	覚えること、伝えること、分ること 記憶とコミュニケーション
10 (22)		漢語と和語 「私たちの意見」集	10 (22)		熟語の成り立ち さまざまな表現に目を向けて
	情景を思いうかべて	大造じいさんとガン		豊かに想像して	やまなし 仮名の由来
11 (22)	調査したことを	敬語 みんなの読書週間 熟語を使って	11 (22)	十二歳の記録	今、わたしは、 わたしたちは、 言葉の使い分け 同じ訓をもつ漢字
12 (16)	<読書>未来をみつめて	守る、みんなの尾瀬を	12 (16)	<読書>未来をみつめて	守る、みんなの尾瀬を

第5・6 (国語科) 第3学期 部分単式A
 (5) 年 (6) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (16)	心の通い合いを	わらぐつの中の神様 六年生を送る会	1 (16)	心の通い合いを	わらぐつの中の神様 ことわざに親しむ
2 (24)	事例をもとに バトンをわたすように	言葉と気持ち 漢字の読み方と使い方 リレー物語を作ろう 言葉の組み立て	2 (24)	文章の構成をとらえて バトンをわたすように	クラス討論会 外来語と日本文化 漢字の世界を広げよう リレー物語を作ろう 敬語の使い方
3 (11)	作品を楽しもう	月夜のみみずく 朗読発表会をしよう	3 (11)	卒業する君たちに	言葉の橋 生きる ゆずり葉

第5・6 (国語科) 第3学期 部分単式B
 (5) 年 (6) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (16)	生き方や考え方を	海の命 六年生を送る会	1 (16)	生き方や考え方を	海の命 ことわざに親しむ クラス討論会
2 (24)	事例をもとに 卒業生とともに	言葉と気持ち 漢字の読み方と使い方 思い出をシナリオに 言葉の組み立て	2 (24)	文章の構成をとらえて 卒業を前にして	外来語と日本文化 漢字の世界を広げよう 思い出をシナリオに 敬語の使い方
3 (11)	作品を楽しもう	月夜のみみずく 朗読発表会をしよう	3 (11)	卒業する君たちに	言葉の橋 生きる ゆずり葉

第1・2 (算数科) 第1学期

(1) 年			(2) 年		
月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4	かずとすうじ	5までのかず (5こにぎって) 10までのかず	4	2年生になって たし算とひき算 長さしらべ	たんじょうびしらべ 1日のせいかつ たし算・ひき算 センチメートル ミリメートル
5	なんばんめ いくつといくつ	なんばんめ 6・7・8・10 0というかず	5	長さしらべ たし算とひき算のひっ算 1000までの数	長さの表し方 たし算・ひき算 おけいこ 100をこえる数
6	いろいろなかたち ふえたりへったり たしざん ひきざん	いろいろなかたち おけいこ ふえたりへったり あわせていくつ のこりはいくつ	6	1000までの数 たし算とひき算のひっ算	たし算とひき算 おさらい たし算のひっ算のしかた
7	ひきざん もうすぐなつやすみ けいさんのかみしばい	ちがいはいくつ もうすぐなつやすみ けいさんのかみしばい	7	たし算とひき算のひっ算 ふえたりへったり もうすぐなつやすみ せんろづくり	ひき算のひっ算のしかた もうすぐなつやすみ せんろづくり

第1・2 (算数科) 第2学期

(1) 年			(2) 年		
月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9	20までのかず おおきさくらべ かたちづくり	20までかず 10といくつ かさくらべ かたちづくり	9	しきと計算のじゅんじょ かさしらべ かくれたかずはいくつ 三角形と四角形	()をつかったしき <、>、=をつかったしき かさしらべ はじめはいくつ 三角形と四角形
10	3つのかずのけいさん たしざん(2)	3つのかずのけいさん たしざん たしざんかあど	10	かけ算(1)	長方形と正方形 かけ算のしき かけ算の九九
11	かたちづくり ひきざん(2) 0のたしざんとひきざん	ばしよとりあそび ひきざん ひきざんかあど 0ん0たしざん	11	かけ算(1) かけ算(1)(2)	かけ算の九九 九九づくり どんな計算になるのかな かけ算の九九
12	0のたしざんとひきざん ものとひとつのかず つきめくりすごろく もうすぐふゆやすみ	0のひきざん ものとひとつのかず なんばんめ つきめくりすごろく かずとかたち	12	かけ算(2) おたのしみ会 もうすぐふゆやすみ	やってみよう おさらい おたのしみ会 もうすぐふゆやすみ

第1・2 (算数科) 第3学期

(1) 年

(2) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1	大きいかず	かずのかぞえかた かずのかきかた 100までのかず おかね すごろく	1	九九んひょう ちがいをみて 100cmをこえる長さ	九九のひょう ちがいをみて りょう手をひろげて長さ cmとm 長さのたし算とひき算
2	とけい 大きいかず おいほうすくないほう おどるにんぎょう	とけい 100をこえるかず おいほうすくないほう おどるにんぎょう	2	10000までの数 ぼくじょう はこづくり	ためしてみましよう おさらい 1000をこえる数 ぼくじょう はこのかたち
3	もうすぐ2ねんせい	かず けいさん おおきくらべとかたち たしざんひきざんをつかって	3	もうすぐ3年生	数とたし算とひき算 かけ算と長さ・かさ・時間 形とかんがえかた

第3・4 (算数科) 第1学期

(3) 年

(4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (15)	1. 九九の表とかけ算 2. わり算	①九九の表をつかて ②かけ算をつかて ①分け方とわり算 ②どんな計算になるのかな ③わり算をつかたもんだい	4 (18)	5. 式と計算 2. わり算	①式と計算のじゅんじょ ②計算のきまり ③計算の間の関係 ①何十でわるわり算 ②わり算の筆算
5 (21)	3. 円と球 4. 何倍でしょう	①円 ②球	5 (17)	3. 角 4. べつべつに、いっしょに	③筆算のしかたを考えよう ④わり算のせいしつ
6 (19)	5. 大きな数 7. たし算とひき算	①万の位 ②10倍した数・10でわった数	6 (19)	1. 大きな数 6. およその数	①億と兆 ②かけ算 ①がい数 ②がい数のたし算・ひき算
7 (13)	9. かくれた数はいくつ(1) もうすぐ夏休み 自由研究三つ葉もよう	かくれた数はいくつ	7 (12)	8. 小数 もうすぐ夏休み 自由研究計算遊び	①小数の表し方 ②小数のしくみ ③どんな計算になるのかな

第3・4 (算数科) 第2学期

(3) 年

(4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (16)	8. かけ算の筆算(1) 11. 三角形	①(2けた)×(1けた)の筆算 ②筆算のしかたを考えよう ③かけ算のいろいろなしかた	9 (24)	11. 小数のかけ算 9. 垂直・平行と四角形	かけ算 ①垂直と平行 ②垂直な直線や平行な直線のかき方
10 (18)	6. 時間と長さ 13. 重さしらべ	①時こくと時間 ②長さしらべ 算数のまど	10 (11)	10. 面積	③四角形
11 (18)	15. 表とグラフ 10. あまりのあるわり算	表づくり ぼうグラフ 算数のまど	11 (22)	12. 調べ方と整理の仕方 7. 折れ線グラフ 11. 小数のわり算	①折れ線グラフのよみ方 ②おれ算グラフのかき方 わり算
12 (12)	12. わり算の筆算	わり算の筆算(1) わり算の筆算(2) 筆算のしかたを考えよう 暗算 算数のまど	12 (12)	13. 何倍でしょう ◎もうすぐ 冬休み	

第3・4 (算数科) 第3学期

(3) 年

(4) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (14)	14. 分数	分数 おけいこ 算数のまど	1 (11)	14. 分数	①分数のいろいろ ②分数のたし算・ひき算 算数のまど
	16. 小数	①はしたの大きさと小数 ②小数の大きさ ③小数のたし算・ひき算		16. 直方体と立方体	①直方体と立方体 ②面や辺の平行と垂直 ③位置の表し方
2 (17)	19. かくれた数はいくつ(2) 18. □をつかった式	かくれた数はいくつ □をつかった式 算数のまど	2 (11)	17. かくれた数はいくつ 15. 変わり方	17. かくれた数はいくつ ①□と△を使って
	17. かけ算の筆算	①何十をかけるかけ算 ②2けたをかけるかけ算の筆算			
3 (10)	20. そろばん ◎もうすぐ4年生	③筆算のしかたを考えよう 算数のまど おさらい	3 (16)	*ごみとリサイクル 水族館に行こう ◇そろばんの練習 ◎もうすぐ 5年生	

第5・6 (算数科) 第1学期

(5) 年

(6) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
4 (15)	1. 合同な図形	① 合同な形 ② 合同な図形のかき方 ③ 三角形と四角形の角	4 (15)	1. 対称な図形	① 線対称 ② 点対称 ③ 多角形と対称
5 (20)	2. 小数とその計算	① 数のしくみ ② 小数のかけ算 ③ 小数のわり算 ④ どんな計算になるのかな	5 (20)	2. 分数のかけ算 3. 分数のわり算	① 分数をかける計算 ② 分数のかけ算を使って ① 分数でわる計算 ② いろいろな計算 ③ どんな計算になるのかな
6 (20)	3. 同じものに目をつけて 4. 見積もりと電卓	① 積・商の見積もり ② 見積もりを使って	6 (20)	4. 条件にあうものをみつけて 5. 比とその利用	④ 割合を使って ① 比と比の値 ② 等しい比
7 (5)	5. 体積 もうすぐ夏休み ふしぎな計算	① 直方体・立方体の体積 ② 容積何倍でしょう	7 (5)	6. 図形の拡大と縮小 もうすぐ夏休み ふしぎな計算	③ 比を使った問題

第5・6 (算数科) 第2学期

(5) 年

(6) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
9 (16)	6. 整数	① 偶数・奇数 ② 倍数と公倍数 ③ 約数と公倍数 ④ 公倍数、公約数の問題	9 (16)	7. 比例と反比例	① 比例 ② 反比例 ③ いろいろな変わり方のグラフ
10 (20)	7. 分数	① 約分と通分 ② 分数のたし算・ひき算 ③ どんな計算になるのかな ④ 分数と小数・整数	10 (20)	8. 量の単位とはかり方	① メートル法 ② はかり方のくふう
11 (20)	8. 面積 9. 順々に調べて 10. 平均とその利用	① 三角形の面積 ② 四角形の面積 ③ 面積の求め方のくふう	11 (20)	9. 立体 10. 変わり方を調べて	① 角柱と円柱 ② 角すいと円すい ③ 立体の体積 変わり方を調べて やってみよう
12 (15)	11. 単位量あたり おじいさんの家まで もうすぐ冬休み	① 単位量あたりの大きさ ② 速さ ③ 速さの問題 2学期の復習	12 (15)	11. 場合を順序よく整理して もうすぐ冬休み	① 場合の数の調べ方 ② いろいろな場合を考えて 2学期の復習

第5・6 (算数科) 第3学期
(5) 年

(6) 年

月/時数	単元	小単元	月/時数	単元	小単元
1 (15)	12. 割合 世界の森林・日本の森林	① 割合 ② 百分率 ③ 割合を使って ④ 割合のグラフ	1 (15)	12. 資料の調べ方 13. 割合を使って	① 資料の整理 ② いろいろなグラフ 割合を使って
2 (15)	13. 円と正多角形 14. 場合をあげて調べて	① 正多角形 ② おうぎ形 ③ 円の周と直径 ④ 円の面積	2 (15)	14. わたしたちの くらしと算数 6年のまとめ	① 数と計算
3 (12)	15. 文字と式 もうすぐ6年生	① 文字を使った式 ② x の値を求める問題 ③ 式の表し方とよみ方	3 (12)		② 量とはかり方 ③ 図形 ④ 数量の関係 ⑤ 問題の見方・考え方

(3) 成果と今後の課題

本校では平成10年度より、同単元同内容指導、類似単元指導の指導法の研究と本年度より平成13年度へ向けて、総合学習の研究に取り組んできた。なにぶん、少人数の教師集団であるので多様な意見交換や共通理解等、なかなか難しかったが、年間カリキュラム試案が出来上がったばかりである。しかし、本校の少子化現象を考えると、児童の持っている個々の可能性を最大限に伸ばすにはどのような方法がいいのか等、見直しをはかる必要がある。そして、より効果的な指導ができる年間カリキュラムにしていくことが急務である。

本年度は、新教育課程と複式学級の指導のあり方に関する研究協力校であるということから、へき地推進教員の加配もあり、個別指導の充実等成果をあげている。

国語科における同内容指導をして、学年別指導による複雑化、分散化を低減し、教師の働きを効率的に生かすことができた。ことに教材研究、個別指導等を充実することができた。また、学習を共通化することで、学習の集団化を促進し、学習の広がりや深まりを促進することもできた。カリキュラムの作成については、共通教材にできるものできないものを吟味し、できないものは学年別扱いとした。ことに、1、2年は、1学期当初学年差が大きいので、へき地推進教員は2年生、学級担任は1年生の学年別別室指導を行った。このことは、1年生は学年当初学校生活に適應することが精一杯であり、言語の実態からも学年別指導が適切であった。また、上学年の教材を下学年に指導する場合、難しくなるのではないかという不安もあるが、学年差よりも個人差による問題のほうが重要ではないかと考え、共通教材を各学期に2～3教材にした。その結果、個別指導の充実が得られた。算数科においては、類似単元指導（同時導入、同時終末）をすることによって、上学年は復習に、下学年は発展的に内容を理解することができた。また、「わたり」や「ずらし」を考慮しないで、同時に単式的に学習をすすめるので教師は個別指導ができ、児童は自学自習の態度が身についた。

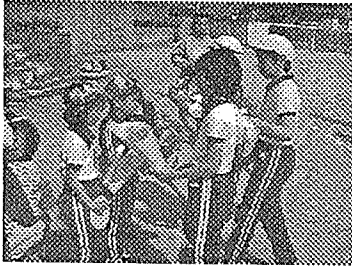
しかし、教師のかかわりが強すぎると、教師依存の児童になりがちになることや活発な討議が展開しないなど多くの問題点がある。そのためにも教師の共通理解と多様な指導法を工夫していく必要がある。子どもたちがこれからの社会に対応し、心豊かに、主体的に、創造的に生きていくことができる資質や能力の育成を目指していきたい。

2 特別活動での全校の縦割り

児童会活動 全校児童で組織し、学校生活の充実と向上のために児童自らが活動している。児童会役員として、6年生全員がメンバーとなり、毎月最終火曜日の6校時に児童集会を開き、話し合い活動をしてる。児童会活動での取り組みは、縦割り班活動を中心にして取り組んでいる。

【一年間の取り組み】

一年生歓迎会（4月）

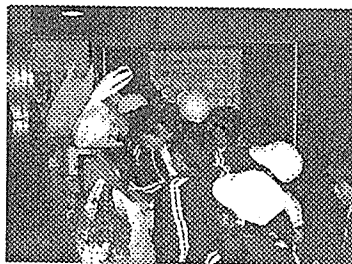
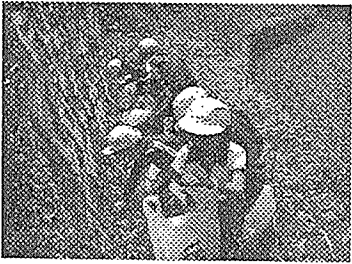


一年生が喜んでくれそうなゲームを取り入れ、児童会で考えたプログラムを実施した。各学年で用意したプレゼントは、一年生に気に入られた。

《プログラム》

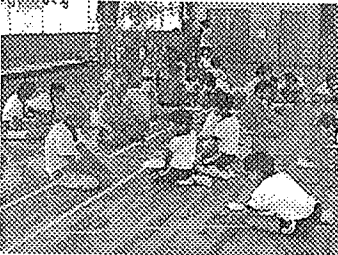
- ①はじめの言葉 ②校長先生のお話 ③ゲーム（ハンカチ落とし・フルーツバスケット・鬼ごっこ）
- ④プレゼントをわたそう ⑤終わりの言葉

でんでん茶摘み（5月）



自分たちが一年間飲むお茶（アケビの葉）を摘む。縦割り班で競い合って摘み、児童会でたくさん摘んだ人や班を表彰した。その後、葉をとる→着る→蒸す→揉む→干すの作業をした

七夕集会（7月）

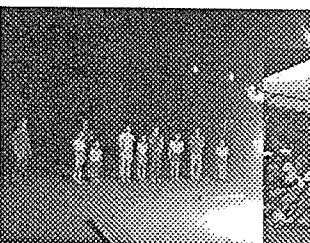


老人会の方々と短冊を書いたり、飾り付けをした。その後、いっしょにゲームなどをして楽しんだ。特におじいさんおばあさんの似顔絵を描くコーナーは好評だった。

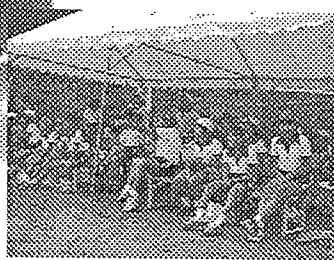
《プログラム》

- ①はじめの言葉 ②かざりつけ ③ゲーム（かめさんゲーム・背中に文字を書いて伝えるゲーム・おじいさんおばあさんに似顔絵を書こう）

キャンプファイヤーのスタンツ（7月）



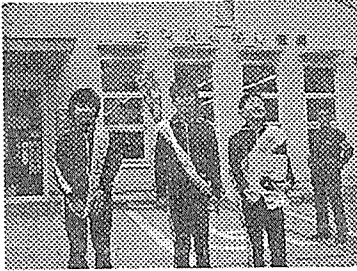
運動会の応援合戦（9月）



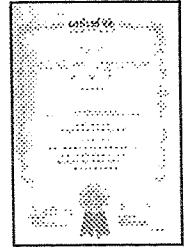
キャンプファイヤーのスタンツや運動会の応援合戦を児童会が中心になって考えた。特に応援合戦は、高学年が考えた演技を低学年に伝え練習し、地区の人たちの前で大きな声を出して演技できた。

赤い羽根募金 (10月)

ユニセフ募金 (2月・昨年)

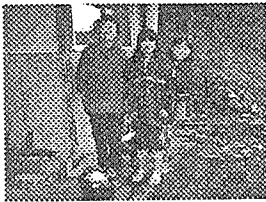


赤い羽根募金は、学校内で活動し、ユニセフ募金は、児童会が校区外まで出かけて行き、寺前・長谷駅前やJ A前などで募金を呼びかけた。そのため多くの協力が得られた。



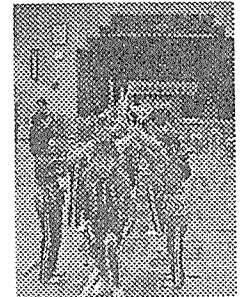
ユニセフからの感謝状

焼きいも大会・焼きいも配り (11月)

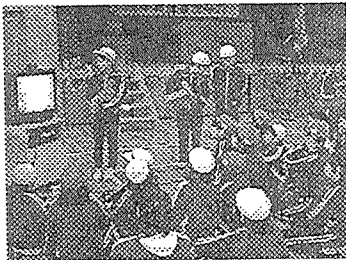


葉ボタン配り (12月・昨年)

縦割り班で育て、収穫できたサツマイモをゲームなどをしながらいっしょに食べる。また、できた焼きいもや葉ボタンを一人暮らしのご老人に配り歩いた。



六年生を送る会 (3月・昨年)



新児童会役員になった五年生が、六年生のために考えたゲームや六年生の思い出の話などを企画した。最後には、太鼓でもよく教えてもらっていたので、

感謝の意味も込めて太鼓の納め式をした。

- 【プログラム】
- ①はじめの言葉 ②校長先生の話 ③ゲーム(成長ゲーム・伝言ゲーム) ④6年生の良いところを言おう
 - ⑤プレゼント⑦6年生からのメッセージ⑧納め式

児童集会 毎月最終の火曜日に定例の集会活動を開き、児童会行事・月目標・清掃・交通班登校などについて話し合っている。特に、月目標を児童自らが考え、「一輪車をがんばる」「運動会を成功させよう」など子どもらしい目標を考えることもある。

縦割り班での活動は、給食当番・清掃当番にも取り入れ活動している。また、親子飯ごう炊さんやキャンプや遠足等の学校行事でも取り入れることによって、それぞれの学年にあった役割分担を行い協力して取り組んでいる。これらの活動によって、友達の新しい面を発見したり、自己実現できたことに自信を持ったりして成果が出ている。また、思いやりの心や優しい心が育っている。このような活動を小規模校だからこそ縦割り班でできる利点を生かして、今後も取り組んでいきたい。

3 児童と教師

(1) 川上っ子タイム

本校では、ゆとりの時間を利用し、毎日25分間の川上っ子タイムを設定し、全校児童が曜日ごとに和太鼓・一輪車・図工の活動をしている。この時間は、児童一人ひとりの個性を引き出し育てると共に、異年齢集団の中で主体的に行動する力を伸ばし、自己表現力を高めることを目指し取り組んでいる。

月	火	水	木	金	土
和太鼓	一輪車	和太鼓	図工	和太鼓	和太鼓

和太鼓

本校では和太鼓を、本校の裏にそびえる砥峰にちなみ「砥峰太鼓」と名付けた。本年度で12年目の取り組みとなっている。

気心のしれた少人数で生活しているため大勢の人の前に出ると自己表現がしっかきできない児童に自信と誇りを持たすべく取り組んでいる。また、曲を演奏するために心を一つにすることにより、全校生の絆が一層深まっている。

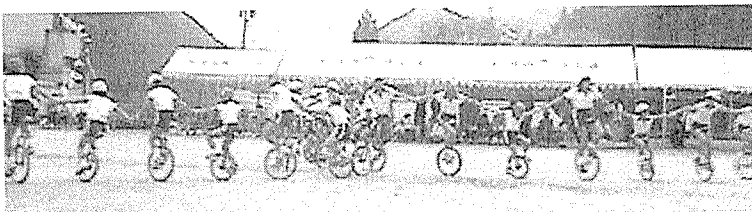
運動会や学習発表会などの学校行事の他にも、砥峰高原で行われる春の山焼きや秋のススキ祭りなどの地域行事、町のイベントなどでも演奏している。全校児童が太鼓に向かい、全身でリズムを取りながら力一杯演奏する姿は、自信と誇りに満ちあふれている。

昨年度の生野町立栃原小学校と太鼓交流は、控えめな本校児童に、より自信と誇りを持たせ、自主性を育むことができた。



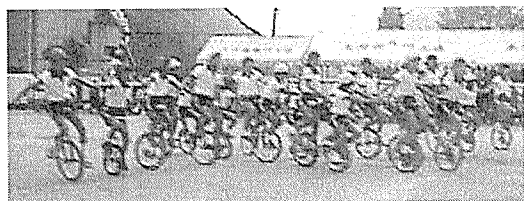
一輪車

4月当初に、児童の体にあった一輪車を決め、川上っ子タイムだけでなく休憩時間などに練習している。一学期



期間は、高学年と低学年でペアを作り、うまく乗れない低学年の児童を一生懸命に教える姿が見られる。次第に上達してくると、アイドリング・片足走行・バック・スピンなど高度な乗り方に挑戦している。

運動会では、集団でおこなう前進・後退・風車などの他に、一学期から練習してきた乗り方の個人披露をした。最後に、今年度は夏季オリンピック・シドニー大会



にちなみ『シドニーへの道』と題し、「一輪車」(1人)→「自転車」(2人)→「自動車」(4人)→「電車」(11人)→「飛行機」(22人)へと個人演技から集団演技へ連続して変化する演技も行った。

図工



学期ごと月ごとに目標・テーマを設定して取り組んでいる。しっかりとものを見て特徴をとらえ、一本一本の線を大切にしながら描く。互いの良さを認め合う。継続的に掲示することにより、自分の成長を知る。これらのことにより、学年の差はあっても、全校児童が意欲的に集中して描いたり、創ったりする姿勢が育ってきている。また、ふれあい七夕では自信を持ってしっかりと、参加してくださったお年寄りの方々の似顔絵を描くことができた。

少人数のため、全校活動が容易であることから、多くの全校活動を行っている。一輪車や和太鼓の練習において、上学年の下学年に対する思いやりは、伝統となって受け継がれている。下学年は、上学年の協力・励ましによって発達段階では無理なようなことでも習得でき、教えてもらったことを上学年になってから活かしながら学校生活を送っている。

(2) 保健室から

～心もからだも元気生き生き川上っ子をめざして～

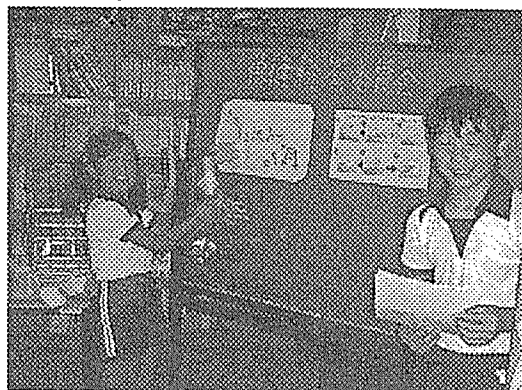
本校では保健に関する知識、習慣、態度を育成するため、年間学校保健計画に基づいて、保健行事、保健指導を行っている。その際、保健室から見た児童の実態をつかみ、今児童たちが必要としている保健活動、心に響く保健活動をおこなうよう心がけている。児童、そして児童から家庭へと健康生活への関心が高まり、一人ひとりの生活に生かされるような取り組みができればと考えている。

①毎月の体重測定時のミニ保健指導

[資料1]

②保健給食委員会の活動

- ・児童による保健指導
- ・ポスター等によるよびかけ



③相談室の活用

[委員会による指導]



本校の保健室は2階にあり、平常3階にいる児童にとって気軽に活用しにくい。そこで空き教室の半分を「相談室」に改造し、保健指導や健康相談の場として利用している。

- ・季節や月の保健目標にあわせた掲示物
- ・心やからだ、性に関する本を置いた図書コーナー
- ・くつろいだ雰囲気では話ができる相談コーナー

④毎月初め及び随時に保健だより『げんき』を発行 [資料2]

児童の興味関心をひくような内容、学校内の様子が家庭に伝わるような保健だよりを目指し作成している。

⑤個別指導

心身の健康や生活習慣に関し問題のある児童への指導及び健康相談活動

[資料1]

ミニ保健指導案

指導者 牛尾 さや香

1. 題材 血はけがを治す力をもっている

2. ねらい

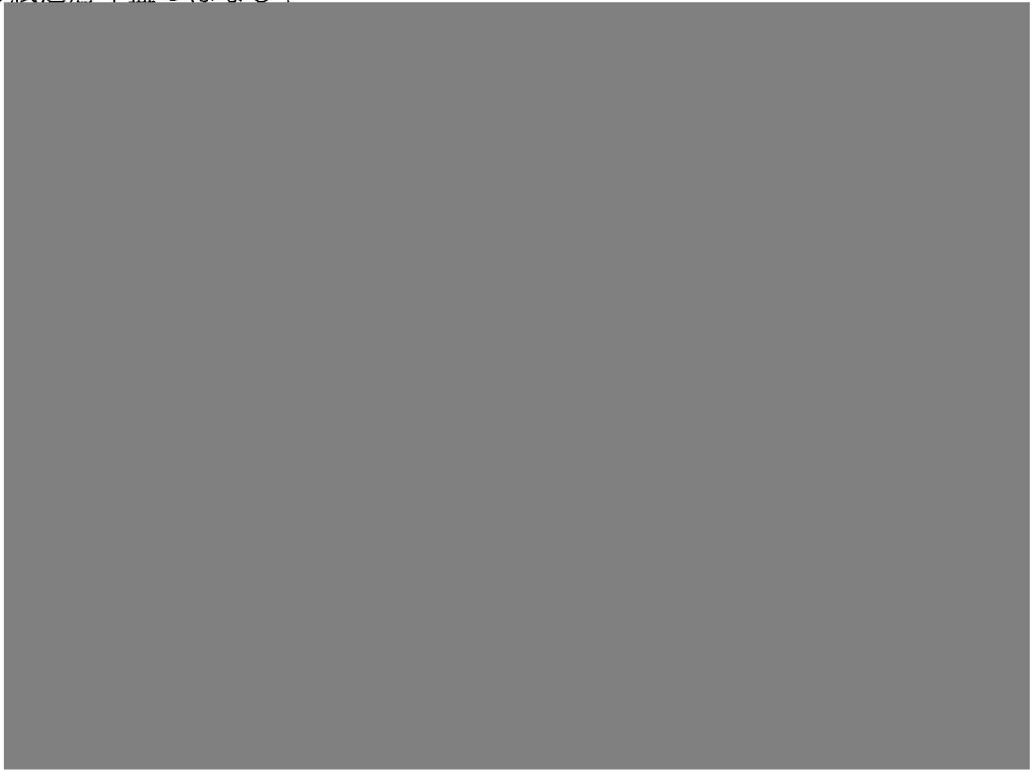
9月は運動会の練習があり、すり傷などのけがが増える時期である。1学期を振り返ると、些細なけがで来室したり、けがをした際の手当ができず、血を流したまま来室したりする児童が多かった。そこで、この時期に血の働きを知ることで、自分の体に備わった力に自信を持ち、また、自分でできる手当の方法を身につけさせることをねらいとした。

3. 準備物 ・応急処置セット・ビーカーに入れた血（絵の具を薄めたもの）
・紙芝居「血のはなし」





4. 展開

学 習 活 動	教師の支援と配慮事項
1. 自分がけがをした時のことを思い出す。 ・どんなけがが多いか。 ・保健室に行くまでに自分でできることは何か。 ・保健室での手当は何か。	・すり傷で保健室を利用する児童が多いことを知らせる。 ・実際に手当をしてみせ、簡単に応急処置ができることに気づかせる。
2. 血の働きについて知る。 ①血のしくみ ・赤血球の働き ・白血球の働き ②けがの治るようす	・ビーカーに入れた血を見せ興味づける。 ・紙芝居「血のはなし」を見せ、理解しやすくする。 ・水と空気がけがを早く治すポイントであることをおさえる。
3. まとめ ・強い血をつくるためにはどうしたらいいのか考える。 ・運動 ・食事	・自分の血がついた物は自分でかたづけることをおさえる。 ・自分の生活を振り返らせ、強い血をつくることのできる生活をしていこうという意欲を持たせる。

○紙芝居「血のはなし」



○児童の感想

<p>  ^う血はけがを^{いん}治す^{さう}かをもっている!! * あもたこと、かんじたこと、いんでも書いてね。 ☆ <u>はん はんえ ○ ○ ○ ○</u>  </p> <hr/> <p>血が出たときに白は球がバイキ ンもたべろのですじかた。</p>	<p>  ^う血はけがを^{いん}治す^{さう}かをもっている!! * あもたこと、かんじたこと、いんでも書いてね。 ☆ <u>はん はんえ ○ ○ ○ ○</u>  </p> <hr/> <p>前までは、けがをすると、すぐに、バンドエイドとか をばっていたけど、いんばくても治るということがよくわ かった。いろいろな、バイキンが出ていることだ'とよくわかった。</p>
---	---

4. 考察

指導の後には、けがをして保健室に来室した際「水で洗ってきたよ。」とか「バンドエイドはらないほうが早く治るから。」という児童が増え、学習したことが少しずつ実践されている。ミニ保健指導後もけがをして保健室を利用した際には継続的に児童に働きかけ、生きた力として定着していけばと考えている。

4 学校と家庭

親子のふれあい

複式を「川上小学校と家庭」ととらえ、親子で学習する行事を設定して、親子の絆を深め、互いの立場や気持ちを理解し、それらの行事を通して生き生きした川上っ子に育てたいと考えている。

ア、親子飯盒すいさんとクリーン作戦

春、山菜が芽吹くころ学校行事として計画、実施した。当日は、保護者と関西電力の方々参加をえて行われた。自然の恵みと親子の会話等ができ、子どもたちの心に自然を大切にしようとする心が身についた。



イ、校内キャンプ

夏の校内キャンプでは、親子でアマゴつかみや親子カラオケなど親子でのイベントを計画した。親子カラオケでは、親子で選曲し、楽しく歌うことができた。



イ、親子ミニ運動会

PTA 体育部が主体的に提案し、教師の協力のもと親子ミニ運動会が実施された。保護者の学校に対する協力と理解により生き生きと取り組んでいた。



ウ、親子スキー教室

3学期の学校行事に親子スキー教室を計画している。毎年、2月にハチ北高原に行き、午前中は学年別に分かれて基本練習をし、午後は親子でスキーを楽しむようにしている。厳しい寒さにも負けないでスキーをする子どもたちの顔は輝いている。

このように、親子との交流は、学校でみる事のできない子どもの違った面を発見できるし、集団での子ども様子もわかり、児童理解につながると思う。そして、家庭での共通した会話もでき、よりよい親子関係を深めることができた。

5 児童と地域

(1) 老人会との交流

川上小学校では、高齢者とのふれあいの機会を多く取っている。川上地区は、1校区1地区である。校区にはお年寄りが多く、独居老人も多い。そういう地域だからこそ高齢者との交流の機会の充実に努め、思いやりの心や共に生きる心を育てることは、とても大切になってくる。

4月 ふれあい潮干狩り

おじいちゃんとおばあちゃんと一台のバスで行きました。さいしょは、動物園へ行きました。田尻先生が

「十一時に集合。」

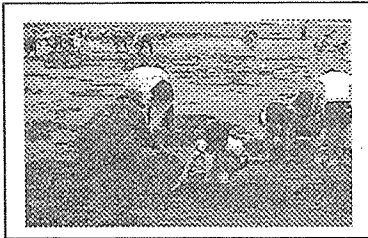
と、言われたので急いで見て回りました。はん行動でした。わたしは、ゆかちゃん、まあちゃん、まさしくん、たつやくんといっしょにまわりました。全部まわったときは、もう十一時でした。

次に新舞子に行きました。四個も貝がかたまっていました。

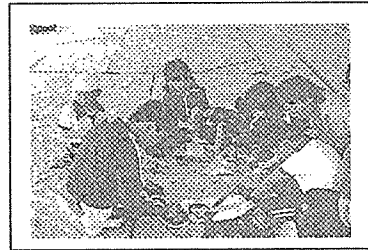
「すごい。」

と言いました。だれかが、うずまき貝をとっていました。貝がたくさんとれたの

でうれしかったです。みんなとしゃべりながらとったのが、とても楽しかったです。（児童作文から）



はじめは、一つもとれない。でも、大人の所へ
行くとたくさんとれた。



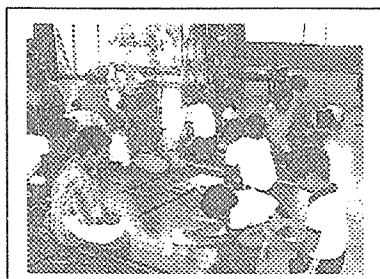
おうちの人が、心をこめて作ってくれたお弁当。
おいしいな。

おばあちゃん嬉しいか、楽しいか……と孫が数日前から話しかけていました。実は、本当に子どものように心待ちに、今日をむかえました。お天気も良く久しぶりに動物園を訪れることが出来ました。

数年前には、手を取って、お堀に落ちないように、迷い子にならないようにと、目配りをしていたのですが、すっかり成長して、反対にやさしく、いたわってくれるようになりました。潮干狩りも、小さいの…大きいのと、はしゃぎながらたくさん拾うことも出来、日頃の忙しさも忘れて、一日を楽しく過ごすことが出来ました。（おばあちゃんのお便りから）

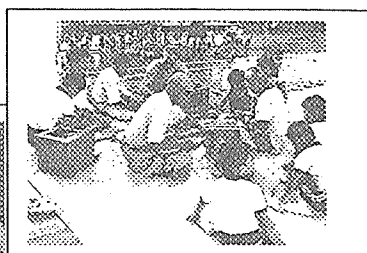
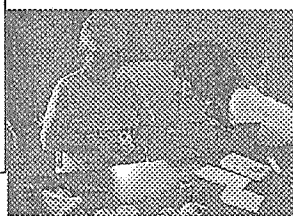
7月 七夕集会

お手玉を一緒に作ったり、ごしだまでっぽうを作ったり楽しいひと時を過ごしました。



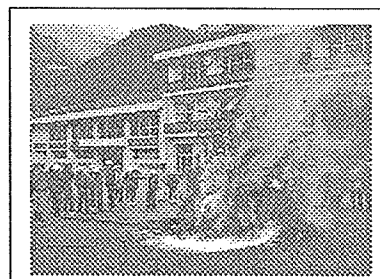
似顔絵を描いています。
うまくかけるかな。

お手玉作り
おばあちゃんじょうず。

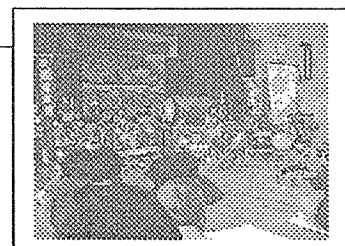


ごしだまでっぽう、球がなくなったら
めれ新聞をまるめて飛ばしました。

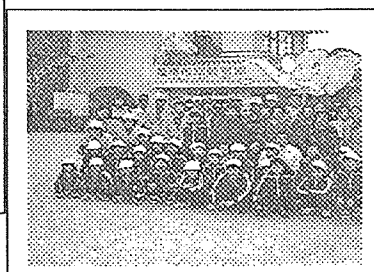
【高齢者との交流】年間計画		
ふれあい潮干狩	4月28日(金)	お年寄りと一緒に潮干狩りに行く
ふれあい観劇	6月15日(木)	地域の人とお年寄りと一緒に民族歌舞団「花こま」「猿回し」を観る
七夕集会	7月7日(金)	お年寄りを招待し、一緒に七夕飾りをした後昔の遊びを覚えてもらう
運動会招待状	9月12日(火)	お年寄りに招待状を作って持っていく
あやめ苑訪問	11月	老人施設を訪問し、お年寄りとおふれあう
独居老人訪問(児童会)	11月	校区の一人暮らしのお年寄りに花や芋をプレゼントする
プレゼント配り	12月	お年寄りに手作りのミニツリーを配る
しめ縄づくり	12月	しめ縄づくりをお年寄りに覚えてもらう
年賀状	12月	75歳以上のお年寄りに年賀状を出す
とんど焼き	1月	地域の人、お年寄りとおふれあう
学習発表会招待状	2月	お年寄りに招待状を作って持っていく



1月 とんど焼き



2月 学習発表会

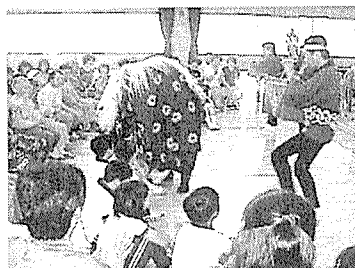


4月 ふれあい潮干狩り

(2) 地域との交流

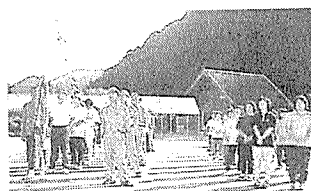
ふれあい観劇

保護者だけでなく大勢の地域の方々と共に民族歌舞団「花こま」のドンドラ太鼓、寿獅子、南京玉簾、猿回しなど普段見ることの少ない演技を觀賞した。獅子に頭をかまれて泣き出す子どもがいたり、猿回しの軽妙で愛嬌のある動きを見たり、笑い声の響く和やかな雰囲気の中、時間のたつのも忘れて楽しいひとときを地域の人たちと共に過ごした。



運動会

幼稚園、小学校だけの運動会ではなく地域の運動会として、例年小学生の演技だけでなく中学生・青年団・消防団・婦人会・老人会など、大勢の人の参加を得て実施している。また、老人会の方に、夏休みに牛乳パックで作った再生紙を使って招待状を書き、多くの方々の参加を呼びかけた。四月当初から「川上っ子タイム」や休憩時間を使って練習してきた一輪車演技や砥峰太鼓の発表だけでなく、団体競技や隣保対抗競技を通してより一体感が生まれ、充実した秋の日の一日を過ごした。



とんど

老人会と学校との行事として始まったが、各最寄りで行っていた「とんど」も学校を会場にして地域ぐるみの行事になった。「とんど」は前日から竹やしめ縄などで老人会の方々に準備される。点火し、残り火で、餅を焼いたり、学校で用意した豚汁を振る舞ったりして、楽しいひとときをすごした。



学習発表会

学校が地域の文化の基地であり続けるために、地域の人を招待して学習発表会を行っている。「川上っ子タイム」や日頃の学習の総まとめとして各学年ごとや、全校で劇や器楽演奏や歌などを発表している。保護者の方々だけに見てもらい、多くの人前で発表する機会がもてることは、児童の大きな自信につながっている。

子どもたちは、学校行事や生活を通して地域やお年寄りの方々とふれ合う機会が多い。また、学校と地域の結びつきが深く『総合的な学習の時間』に地域学習を行うにはよい条件がそろっている。今後は、今までの活動をより精選し発展させ組み立てていく必要がある。開かれた学校はもとより、地域の行事、伝統行事、文化的行事に積極的に参加し、地域の人たちとのふれ合いを大切にできる小規模校ならではの実践を進めていきたい。

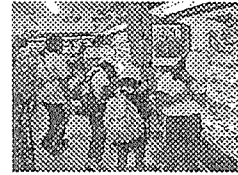
6 川上小学校児童と近隣校児童

(1) 交流学習

町内には、本校を含め4校の小規模校があり、中規模校の寺前小学校とともに年6回の交流学習を行っている。

交流学習でねらうもの

- ・友達と関わる経験を広げる。
- ・ものの見方、考え方を広げ深める。
- ・集団での学習を経験することで協力的な人間関係を保つ心情と連帯意識を育てる。



交流学習の基本姿勢

- ・温かい人間関係を育てるとともに、お互いに相手を認めあう心情や態度を育てる。
- ・部会や合同部会で行う学習内容は、その学年の目標、内容を基本に行うとともに、道徳と4教科に加え総合的な学習も思考する。
- ・綿密な計画を立てて、充実したものにすする。
- ・児童が心から学び、主体的に取り組む学習会にする。

同年齢の大きい集団の中に入ることは、本校児童にとって緊張を強いられることである。それだけに、緊張を乗り越えたときの達成感や自信につながっている。

朝、深山トンネルをくぐって交流学習の会場に行くときの子どもの硬い表情が、帰りのバスで「友だちができた。」と笑顔に変わる。

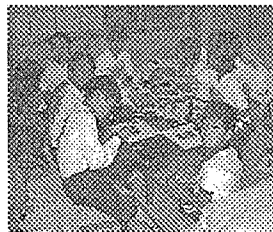


(2) 自然学校

自然学校は、町内5校連合で実施される。

グループは5校混合で編成される。本校児童もそれぞれのグループの友だちと6日間生活をともにした。それまでの交流学習で他校の児童との関わりが十分できており、他校の友だちと楽しんで活動していた。

このときのグループでその後の交流学習を進められ、子ども同士の関係は深まっている。そのため、神崎郡内連合修学旅行で会えることを楽しみにしている。



交流学習、自然学校など同年齢集団でもまれることで、子どもたちは逞しさを身につけている。

このことが、中学校進学に対する不安を取り除き、のびのびと生活することにつながっている。

7 川上小学校児童と町内外の人々

(1) 生野町立栃原小学校との太鼓交流

和太鼓の指導を受けている塚本利郎先生の紹介で、和太鼓を学校の特徴の一つとしている生野町立栃原小学校と交流を行った。演奏を聴いてもらうだけでなく、栃原小学校の和太鼓の演奏を聴いたり、一緒に演奏したりして自分たちの和太鼓に対する取り組みと比べることによって、和太鼓に対する自信と誇りを深めた。



(2) インターネット

大河内町立長谷小学校・福崎町立福崎小学校との間で e-mail を使って交流を行った。長谷小学校については、町内の交流学习で知っていたが、郡内でも川上とは環境が大きく違う福崎小学校とは川の様子調べの情報交換から始まり、雪の情報交換なども行った。「福崎では、5 cm 位雪が降っただけで大騒ぎや。川上やったら 5 cm くらい大したことないのに。」と同じ郡内でも雪の積もり方、感じ方が違うことに気づいた。

送出人：福崎小学校
宛先：川上小学校
日時：2000年2月9日
件名：雪が降りました

4年生のみなさんへ

雪が降りました。5センチメートルくらい積もっています。朝から雪遊びで大騒ぎです。そちらはどうですか？

宛先：福崎小学校
日時：2000年2月17日
件名：2月10日、17日の川上小の雪情報

福崎小の4年生の皆さんへ

先日の福崎小の雪情報のメールありがとう。ぼくたち川上小でもたくさん雪が降りました。ざっと30センチくらいでしょうか。

ブルドーザーで学校の運動場の雪を築ってもらって穴をほってかまくらにしたり、スノーボードゲレンデを全校生で作って遊びました。川上マンスとみんなで作りました。

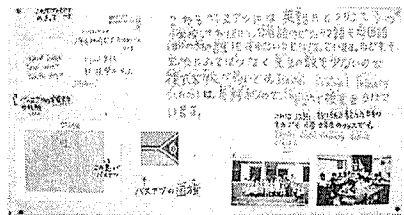
また、15日16日の雪では、学校の真の真急な階段を雪でうめつくして、すごく急なスノーボードゲレンデを作って遊びました。初めはこわいけれど、とてもスピードが出て、速くまですべれるので最高です。学校から帰ってからも、みんな自然に学校に集まり、雪遊びです。

18日には、学校からスキーに鉢伏高原へ行きます。福崎小では、スキーに行くんですか。ぼくたちは、スキーは、大好きです。明日を楽しみにしています。

2000.1.17. 川上小4年より

(3) バヌアツ共和国

一昨年まで川上幼稚園に勤務しておられた安保教諭が、青年海外協力隊隊員として、南太平洋にあるバヌアツ共和国で活動されている。現地の様子など絵はがきや手紙で知らせてくださった。また、「クレパスも使ったことのない子どもがあり、そんな子に色を使って描く楽しさを味わわせてやりたい。」との連絡を受けて、児童会だよりで不要になったクレヨン・クレパス色鉛筆を集め、バヌアツへ発送してもらった。今までに送られてきた絵だけでなく、いろいろな色を使った絵が届くことを楽しみにしている。



本校は、小規模校で地域の人たちとの強い結びつきをもち、いろいろな場を通してふれ合いを深められるという長所がある反面、地域の枠をなかなか越えることができない。国際化、情報化が進んでいる現在、いろいろな地域の人たちとの交流を自然に受け止め、対応できるようにしていかなければならない。そのためにも、人と人とのつながりを大切にしたり、インターネットを活用し情報交換をしたりして、これからも他地域との交流も深めていきたい。

おわりに

総務庁が2000年4月に発表した子ども人口（15歳未満）は、1871万人となり、前年度より17万人減って、調査史上最小を記録した。少子化は年々進み、総人口に占める子ども人口の比率も昨年に続いて15%を切っている。学校基本調査でも各学校の在籍者数は軒並みに減少し、初等中等教育人口の縮小が一段と進んだ結果になった。今後、小規模校、複式学級がさらに増加することは明らかである。

本校は小規模と複式にへき地の三つの特性を持っている。へき地の三特性をプラスに捉え、「へき地だからできる、小規模だからできる、複式だからできる教育とは何か。」を何度も話し合った。平成10年度より全職員が「複式生き生き川上っ子」を合い言葉に研究を進めてきた。遅々たる歩みではあるが、少しずつ成果が表れてきている。指導者がより深く意識して指導や支援できるように、学習指導案についても改善した。個人目標・個人カルテ・振り返りカード、学習構造図といろいろ個別化や集団化を図るための工夫をしていった。教科指導では、学習内容に深まりと広がりが見られるようになり、時間のゆとりもでき、教材研究も十分できるようになった。縦割り班での活動は協力することの大切さや思いやりの心が育っている。一輪車に乗れなかった一年生をみんなで支えたり、和太鼓の演奏の仕方を教えたり・・・川上小学校のよき伝統となっている。地域の人との交流では、ふるさとや自然を愛する心が育っている。また、近隣校児童との交流では活動範囲が広がり、多様な考え方や価値観を知ることができた。しかし、少人数であるゆえ、教師の目が届きすぎ、子どもたちが自ら伸びようとしている芽を摘んではいなかっただろうか。13年度は全校生18名、14年度は13名、15年度は10名となり、ますます少人数になっていくが、大勢の前でも堂々と考えが述べられる川上っ子をどう育てていけばいいのか。複複式になったらどう指導していくのか・・・まだまだ課題は多く残っている。

これからの学校には、自主性と自律性の確立ということが強く求められている。それとともに、各学校は子どもや学校の実態に応じた学校教育の展開や特色ある学校づくりということが要求されている。この要望に応えることができるのは、本校のようなへき地、小規模校ではないだろうか。今日を新たなスタートとし、生き生き川上っ子を育てるため、さらに研究を深めていきたい。

研究同人

平成12年度

藤末 康男
大塚 裕美子
上野 由貴
草壁 梨枝子

能瀬 榮子
鎌谷 道夫
牛尾 さや香

岡田 典子
田尻 善昭
市場 さとみ

